

始



大正九年度業務報告

岡山縣水產試驗場

142h-104

大正九年度岡山縣水產試驗場業務報告

目次

漁

撈部

技手 桑原時藏擔任

一、試驗船岡山丸建造

一

二、朝鮮海鮪流網漁業試驗

三

三、築磯飼付漁業調查

三

養

殖部

技手 建部 豪擔任

一、流水養魚委託試驗

三

二、養魚餌料比較試驗

四〇

三、淡水魚族人工孵化放流試驗

四〇

1、鮎人工孵化放流試驗

四〇

2、鱒族人工孵化放流試驗

四〇

大正
11. 6. 22
寄贈

寄贈本

四、牡蠣養殖試驗……………壹

 イ、住ノ江牡蠣養殖試驗……………壹

 ロ、眞牡蠣養殖試驗……………壹

五、淺海利用調査……………壹

 イ、一般的調査……………壹

 ロ、藻貝採苗調査……………壹

 ハ、海蘊蕃殖調査……………壹

六、海洋橫斷觀測……………壹



漁撈部

試驗船岡山丸建造

一、造船ノ趣旨

大平洋日本海ノ如キ廣大ナル海洋ニ比較シテ狭少猫ノ類ノ如キ瀬戸内海ニ面セル本縣水産試驗場ニ於テハ縣内ニ在リテハ漁業ノ改善整理並ビニ水族ノ蕃殖保護上必要ナル諸般ノ調査及ビ試驗指導ヲ爲サルベカラズ又行詰レル本縣漁業開發ノ爲ニハ朝鮮海大洋洋其他ノ外海ニ向ツテ縣民出漁ノ試驗指導ニ努力セザルベカラズ。夫等ノ指導試驗ヲ爲スニハ勢ヒ輕快ナル發動機付漁船ノ活動ヲ要スルノ議成リ茲ニ試驗船ノ新造ヲ見ルニ到リシ所以ナリ。

一、工事經過ノ概要

本船ハ總噸數拾參噸、參ヲ算シ是ニ日本鐵工株式會社製上下裝置機付拾五馬力輕油發動機付日本型帆船ニシテ其設計ハ前場長小島省吾氏ノ手ニ成リ本場技術員ノ嚴重ナル監督ノ下ニ船体ノ建造ハ縣下邑久郡牛窓町竹内甚太郎ニ委囑シ大正九年十一月一日初メテ工ヲ起シ越ヘテ翌大正十年一月十九日無事竣工進水シ岡山丸ト命名ス、機關ハ船用石油發動機製作所トシテ第一流ニ屬スル池貝鐵工所、新潟鐵工所、日本鐵工株式會社ノ三會社ニ就キ比較研究セシ結果、其設備及ビ製作品ニ於テ優劣無ク獨リ價格ノ點ニ於テ日本鐵工ノ物適當ナルヲ認メシヲ以テ是ヲ撰ビ船体進水後直チニ是ガ据付ニ着手スルト共ニ艤裝ニ從事シ其成ルヲ俟テテ海上試運轉ヲ行ヒシ結果最高速力七海里八分、最高回轉數四百十、輕油消費量一時間ニ付キ三升弱ニシテ豫期以上ノ好成绩ヲ收メ得タリ。

三、船体設計仕様書

一般計割

本船ハ石油發動機付木造船ニシテ縣ノ内外ヲ問ハズ漁業其他ノ試験調査並ニ實地指導ノ業務ニ使用スルヲ以テ目的トス、其船体ハ下記仕様書ニ基キ材料ヲ精選シ完全ニ構造スルモノニシテ之レニ上下装置機付拾五馬力石油發動機ヲ据付クルモノナリ。

船型ハ日本型木造船トシ其重要寸法左ノ如シ

検査規定ニ依ル長、四拾八尺（總長五拾五尺五寸）

全上幅、拾尺

全上深、四尺參寸五分

第一數、九、三五

第二數、二〇八八、〇〇

比例

長ト幅、四、八〇

長ト深、一、一〇三

幅ト深、二、二九

計劃噸數、拾貳噸

計劃馬力、拾五馬力

計劃速力、六海里

本船々室ノ配置ハ設計圖面ノ如ク船尾ヨリ船庫、船室兼炊事室、機關室、石油庫、活魚艙、漁具艙、艙庫、船員室兼物入ノ順序ニ區劃シ各室間ニハ支水隔壁板ヲ設ケ活魚艙内ニハ縱隔壁板ヲ設クベシ。

用材ハ充分乾燥シタルモノヲ使用シ有害ナル節瘤、腐蝕、裂傷等ノ欠点ヲ有セズ木理ノ貫通シタルモノヲ使用スベシ。用釘ハ良質ノ鐵釘ヲ使用シ其敲釘ハ凡テ全質金屬ノ座金上ニテ敲着シ打込釘ハ其長サ固着スベキ板ノ厚サノ貳倍以上トス。又釘孔ハ常ニ釘徑ヨリ五厘ヲ減ジタルモノヨリ大ナルベカラズ。板ノ縫着其他ニ用フベキ落釘等モ亦之ニ準ズ。

主要材料寸法固着法

一、敷板

亞米利加松赤身材トシ厚四寸、幅中央部ニ於テ二尺九寸五分其他各部ノ寸法及ビ長サハ圖面ノ通りトス。

其縱線ノ接合部ハ重量百斤ノ落釘ヲ壹尺以内ノ心巨ニ配置シテ縫着シ尙之ニ鐵製平鋸ヲ適當ニ配當スベシ。

前敷ト後敷トノ接合ハ釣形水平嵌接トシ其長サ八寸以上トシ徑四分ノ敲釘ヲ七寸以内ノ心巨ニ二列ニ配置シテ固着スベシ嵌接ニハ中央ニ水留樞ヲ打込ムベシ。

一、船首材

樁材ヲ用ヒ厚サ後面ニテ五寸、幅一尺三寸其他ノ寸法形狀ハ圖面ノ通り一材ヲ以テ造リ敷トハ長サ八寸以上ノ釣形嵌接トシ内部ニ五寸角ノ松根曲材ヲ敷及ビ船首材ニ跨ラシメ徑四分ノ敲釘及全徑打込釘各二本ヲ以テ固着スベシ、中央ニハ水留樞ヲ打込ムコト

一、戸立

亞米利加松ノ良材厚三寸三材合トシ其矧合ニハ重量七十斤ノ落釘ヲ心巨六寸以内ニ配置シ固着スベシ。

敷及ビ戸立ニ三寸角ノ松根曲材二本ヲ跨ラシメ徑四分敲釘四本ヲ以テ固着スベシ。

一、肋 骨

松天然曲材ヲ用ヒ根材ノ大サ三寸角トシ頂部ニ至ルニ從ヒ次第ニ大サヲ減ジ二寸五分角トナス、其銜接ハ全載面ヲ有スル長一尺三寸以上ノ松材ヲ添材トシ、徑三分敲釘四本ヲ以テ固着ス、又嵌接トナスルハ其長サ一尺三寸以上トシ徑三分敲釘三本ヲ以テ敲着スベシ。各肋骨ト敷トノ固着ハ徑四分敲釘及ビ全徑打込敲トヲ以テ交互ニ六寸ノ心巨ニ配置シテ固着スベシ。

肋骨ノ位置ハ圖面ニ示ス通リトシ總テ拾四組ヲ要ス。

一、棚 板 (外板)

杉良材ニシテ可成長材ヲ用ヒ厚一寸四分トス、各板ノ縫着ハ重量三十斤ノ落釘及ビ通釘ヲ以テスル挽合接トシ其心巨ハ加敷上棚其他ヲ通シテ六寸乃至七寸以内トス、肋骨トノ接合ハ徑三分ノ敲釘及ビ全徑打込釘ヲ交互ニ各肋骨毎ニ固着シ又梁受材トハ肋骨ヲ貫通シテ徑三分敲釘ヲ以テ固着スベシ。而シテ甲板通リ線上ノ棚板ニハ徑二寸五分ノ半丸材ヲ船首尾ニ縦通釘着スルモノトス。

一、梁 受 材

松良材厚二寸五分幅五寸トス嵌接ノ長サ二尺トシ徑三分敲釘及ビ全徑打込釘ヲ以テ接合ス又肋骨トハ徑三分打込釘ヲ以テ固着スベシ。

一、甲 板 梁

松材トシ普通甲板梁幅三寸厚二寸五分、機關室後部幅四寸厚三寸五分、船員炊事室後部參寸五分角、橋部四寸角、大船口梁幅四寸厚三寸五分、全縱梁三寸角、半梁幅二寸五分厚二寸トス(梁矢一寸五分)各梁ハ梁受板上鳩尾形溝ニ乗セ徑四分又ハ三分敲釘又ハ全徑打込釘ヲ以テ梁受板ニ固着スベシ、面シテ甲板梁中表部ニ於テ一ヶ所ハ棚板ニ貫通スルモノトス。

トス。

梁ノ位置及ビ數量ハ圖面ニ依ルベシ。

一、甲 板

杉良材厚一寸二分幅八寸内外トシ徑三分打込釘二本宛ヲ以テ梁ニ固着ス、尙各板ノ縫着ハ十二斤落釘ヲ以テスル挽合接トス。

一、艙 口 緣 板

松材二寸角トシ、徑三分打込釘ヲ八寸心巨ニ配置板甲板ヲ貫通シテ梁及ビ縱梁ニ固着ス。各艙口ニハ夫々適當ノ寸法ヲ有スル艙口蓋ヲ添付スルコト

一、機 關 室 緣 材

松材厚二寸五分高五寸トシ徑三分ノ敲釘ヲ心巨一尺ニ配置シ梁及ビ縱梁ニ固着ス。

一、舵 床

松良材ヲ用ヒ中央ノ幅一尺六寸長サ十一尺八寸トシ、一寸二分角樅材二本ヲ用ヒ針金ヲ以テ堅固ニ緊縛スベシ。

一、副 床

松良材幅七寸厚五寸トシ戸立ノ後面ニ於テ棚板ニ貫通シテ取付ケ之レニ上下裝置機ヲ設定スルモノトス。

一、槽 床

松材三寸五分角及ビ四寸角トシ徑四分敲釘及ビ樅材ヲ以テ甲板梁ニ固着シ之レニ張出縱通材ヲ載スルモノトス(半槽床ハ八本三寸五分角、全通槽床一本四寸角)

一、隔 壁 板

活魚船ニ在リテハ杉良材厚一寸六分、其他ハ亞米利加良材厚一寸四分トシ圖示ノ通り各室間ニ支水隔壁トシテ設クルモノトス。各板ノ縫接ニハ重量二十五匁以上ノ落釘ヲ以テスル挽合接キトナシ又棚板トハ重量二十五匁以上ノ頭釘ヲ以テ固着スベシ。

活魚船内特ニ入念水密ニ構造スルモノトス。

一、舷 橋 柱

適當ノ巨離九箇所ニ肋骨ヲ延長シテ用ヒ之ニ徑三分打込釘ヲ以テ上棚ノ延長シタルモノヲ取付ケ總テ高サ一尺トス。頂部ニハ樫厚サ一寸三分幅三寸ノ手欄ヲ附ス。

一、張出縦通材

松材厚三寸幅五寸ノ長材ヲ橋床及ビ舵床ニ徑四分ノ敲釘ヲ以テ固着シ船首尾ニ縦通セシメ之レニ杉厚一寸ノ張出ヲ棚板トノ間ニ排列横架スルモノトス。

一、機 關 台

松赤身材トシ高サ一尺厚六寸ノモノニ材トシ長サハ機關室前後ノ二肋骨間ニ延長セシメ肋骨毎ニハ徑五分敲釘ヲ以テ固着ス。

一、橋 枳

松材トシ圖示ノ位置二箇所ニ樹立シ下部ハ筧ヲ作出シテ敷ニ嵌入シ上部ハ甲板梁ニ徑五分敲釘ヲ以テ固着ス其長サ其他寸法ハ圖面ニ依ルベシ。

一、機關室及船員炊事室

相接續スル全一カイシング内ニ收メ縁材上ニ松二寸五分角ノ立柱ヲ圖示ノ通り取付ケ上部ニ全大ノ松梁材ヲ付ケ天井ハ

杉厚一寸二分、四壁ハ杉厚一寸板ヲ以テ包圍ス、其兩側面ハ引戸ノ裝置トシ右舷並ニ後面ニ出入口ヲ設ク、其他天井圖示ノ位置ニ天窗ヲ設ケ又室内ニ床、腰掛、押入ヲ設置スル等詳細ノ点ハ監督者ノ指揮ニ從フモノトス。

一、天 神

樫材長五尺幅四寸五分厚二寸五分ノモノ二本ヲ舵床上ニ圖面ノ通り樹立シ横枳ヲ付ス。

一、貫 木

四寸五分角松長四尺八寸トス、樫枳材ヲ以テ船着部甲板梁ニ取付ク。

一、橋及ビ帆桁

船内二箇所ノ橋枳ニ依リテ起倒自在ナラシルモノニシテ用材ハ檜トシ、大橋ハ長二十八尺根徑六寸、前橋ハ長二十七尺根徑六寸トシ之ニ適當ノ帆桁ヲ添付スルコト

一、舵

樫良材ヲ用ヒ矧材ハ松トス、長一丈一尺、幅最廣部二尺二寸トス、形狀寸法等ハ圖面ノ通りトス、以上ノ外本書ニ記載ナキモノニ對シテハ圖面又ハ監督者ノ指揮ニ從ヒ夫々必要ノ工事ヲ爲スベキモノトス。

四、機關設計仕樣書

第一條 本機ハ「貳サイクル」式火球着火式ニシテ氣筒ノ數ヲ壹個トシ充分確實堅牢ニ製作スベシ。

第二條 本機ハ純十五馬力ニシテ壹割以上ノ過荷重ニ耐フルモノナルコトヲ要ス。

第三條 氣筒及吸錫ノ材料ハ特ニ優良ナル鑄鐵ヲ用ヒ毫モ鑄疵鑄泡ナク適當ナル強力ヲ有シ且ツ其工作ハ精密ニシテ

偏心ナク三回以上ノ再削ヲ行フモ尙充分ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス。

第四條 曲拐軸ハ優良ナル鋼製ニシテ充分強力ヲ有シ精密ナル仕上ヲ施シ毫モ偏心瑕疵ナク鑄鐵製「バランスウエー
ト」ヲ取付ケ完全ニ「バランス」セルモノナルコトヲ要ス。

第五條 吸拐栓ハ鋼製ニシテ焼入ヲナシ「グラインダー」仕上トナスコトヲ要ス。

第六條 連接鐸ハ良質ノ鑄鋼ヲ使用シ上下黃銅ハ特ニ優良ナルモノヲ用ヒ上下共ニ二個ニ分離スルモノナル事ヲ要
ス。

第七條 各主軸受ハ黃銅ヲ用ヒ之ニ減磨金屬ヲ鑄嵌シ充分ナル摩擦面ヲ有シ且ツ完全ニ注油ヲ行フ構造ニ製作スベ
シ。

第八條 機關台ハ堅牢ヲ旨トシ充分ナル面積ヲ有シ且ツ必要部分ハ精密ナル仕上ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス。

第九條 本機ニハ完全ナル逆轉裝置ヲ備フルコトヲ要ス。

第十條 進力受臺ハ球軸受トナシ球及ビ環ハ鋼製ニシテ焼入ヲナシ精密ナル仕上ヲナシタルモノナルコトヲ要ス。

第十一條 循環水ポンプハ砲金製ニシテ充分ナル容量ヲ有スルモノナル事ヲ要ス。

第十二條 塗水ポンプハ砲金製ニシテ充分ノ容量ヲ有シ主機關ニヨリ動作スルモノトス。

第十三條 螺旋軸ハ真鍮製ニシテ推進機上下裝置トナスコトヲ要ス。

第十四條 船尾管ハ全部砲金製ニシテ後部軸受部ニハ「リグナムバイダー」ヲ嵌入スベシ。

第十五條 螺旋推進器ハ砲金製三翅トシ完全ニ「バランス」シタルモノナルコトヲ要ス。

第十六條 本機ハ左ノ豫備品ヲ附スベシ

一、吸 鑄 發 條 參 個

一、火 球 壹 個

一、調整器用發條 貳 個

一、噴 油 器 貳 個

一、噴 油 器 外 筒 壹 個

一、給油唧筒用發條 壹 個

一、給 油 唧 筒 辨 壹 組

一、銅管接續螺子及筒 貳 個

一、皮 製 空 氣 辨 貳 個

一、ゲージグラス 四 個

一、加熱用ランプ 壹 個

一、ス パ ナ 壹 式

一、各 種 發 條 壹 揃

一、接續鐸上下螺釘 壹 組

一、各種ボルト及ナット 壹 組

一、機關室用小道具 壹 揃

第十七條 本機竣工ノ上ハ監督官立會ノ上左ノ陸上試運轉ヲ行ヒ支障ナキヲ要ス。

第一回 純拾五馬力ノ狀態ニ於テ參時間連續運轉

第二回 純拾六馬力半ノ狀態ニ於テ壹時間連續運轉

第拾八條 前條試運轉中ハ何レモ燃料清水及機械油消費量ヲ測定シ壹馬力壹時間當リ石油貳合以內、清水四合以內、機械油參勺以內ナルコトヲ要ス。但シ本機試運轉ニ用フル石油ハ比重ボ一メ一貳拾八度内外ノ輕油トス。

第十九條 陸上運轉終了後ハ氣筒、吸鑄、曲拐軸、螺旋軸、螺旋推進器其他必要ナル部分ニ就イテ監督官ノ検査ヲ受クベシ。

第二十條 本機竣工ノ上ハ直ニ岡山縣水産試驗場新造船ニ据付クルコトヲ要ス。但シ本船ハ岡山縣内ニ於テ造船ス。

第二十一條 船体ニ本機ノ据付ヲ完了シタル時ハ監督官立會ノ上適當ト認ムル狀態ニ於テ參時間以上全速力航走試運轉ヲ行ビ支障ナキヲ要ス。

第二十二條 本機引渡後滿一ケ年以内ニ氣筒ノ再削ヲ要シ又ハ曲拐軸ノ折損アリタル時其他ノ箇所ニ關シ一ケ年以内ニ起レル一切ノ故障ハ請負人ニ於テ直チニ修繕又ハ取替ヲ爲スヲ要ス、此場合ニ於ケル一切ノ費用ハ請負者ノ負担トス。

第二十三條 本機据付後完了迄ニ要スル一切ノ費用ハ請負者ノ負担トス。

五、造船費及ビ機關購入費

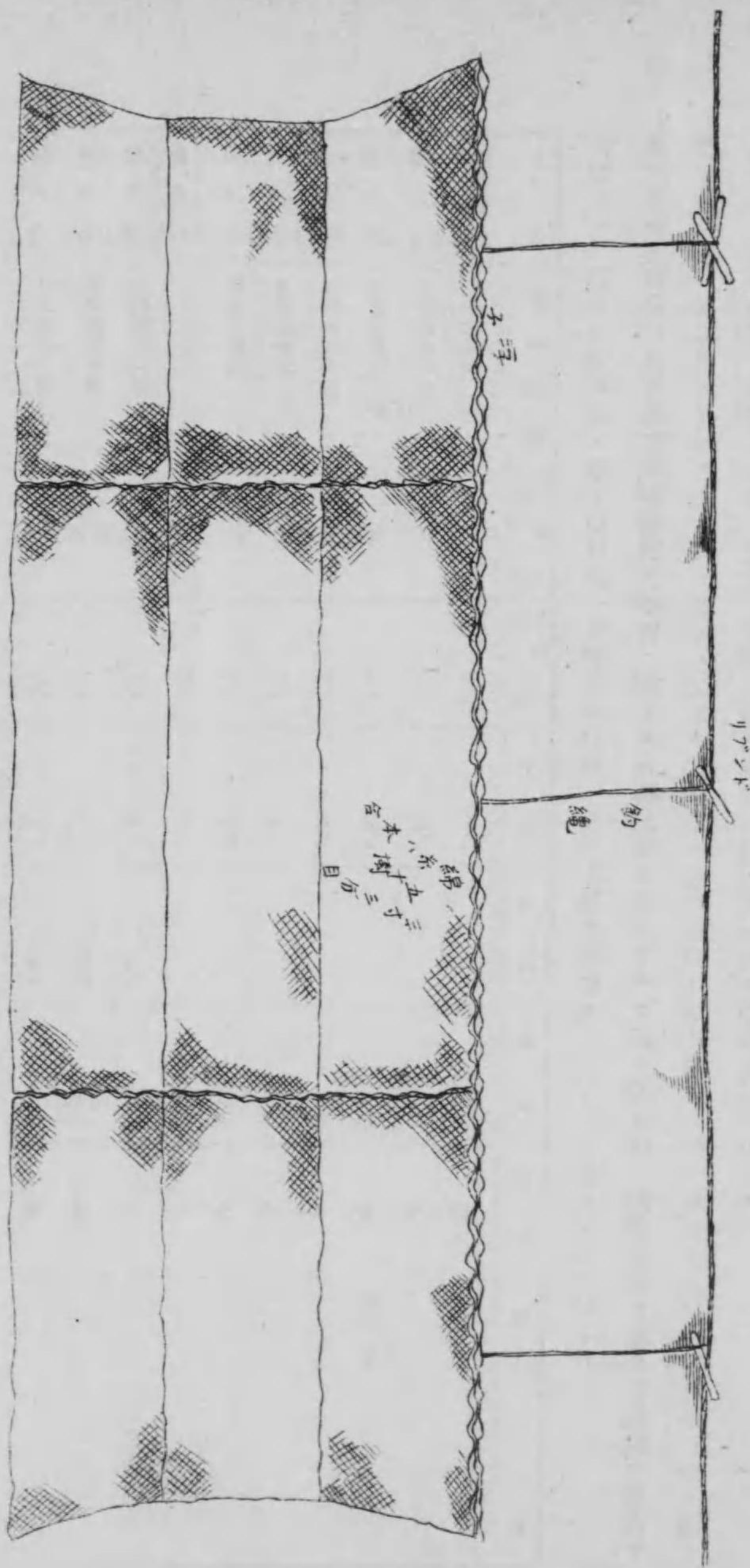
- 一、船体建造及艤裝費 金貳千六百圓也
- 一、機關及附屬具購入並ニ据付費 金參千七拾五圓也
- 一、傳馬船建造費櫓權共 金六拾八圓五拾錢也
- 合計 金五千七百四拾參圓五拾錢也

六、船体附屬具

兩色航海燈	壹個	碇泊燈	貳個	大型櫓	壹本	金具付水竿	貳拾八尋	マニラ製錨網	四拾八尋	棕梠製錨網	百四拾尋	水揚唧筒	壹個	アルコール羅針盤	壹個	砂漏計(二十八秒)	壹個	ハンドログ	壹個	海國旗	貳面	船名旗	貳面	寢具	四組	滑車	拾個	マニラ麻索具	五個	双眼鏡	壹個	海錨	壹式
-------	----	-----	----	-----	----	-------	------	--------	------	-------	------	------	----	----------	----	-----------	----	-------	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	--------	----	-----	----	----	----

- (二) 網目ハ総テ三寸三分目ニ編網セリ。
- (三) 浮子ハ其數ヲ減シテ一把即チ十七尋ニ二十三個ノ割合ニテ附シタリ。
- (四) 縁網(一名カッオガ、リ)ヲ廢シテ復廉網トナセリ。

左圖ノ如シ



陽穀商會南洋商業部

漁場

本年度ハ於蘭鎮沖馬路海即チ於蘭鎮以西珍島東海及ビ東南一帶ノ海面ニ於ル漁場ニ於テノミ試驗セリ。
 而シテ大体ニ於テ前年度ニ何等異ル所ナカリシモ五月十五日頃ヨリ潮流及ビ氣象ニ變化アリタレ共好漁場タルノ見込ハ失ハズ。今其位置、潮流、水温、比重、水深、底質並ビニ海況等ニ就キ概要ヲ記サントス。
 然レ共漁場ノ區域廣汎ナルガ故ニ同一漁場ニ於テモ其位置ニ依リ時間ニ依リ潮流ニ依リ水温比重其他ノ諸項ニ依リ同ジカラザルハ明瞭ニシテ且ツ天候海況ノ如何ニ依リテモ變化多キモノナルガ故ニ短日月ノ調査試驗ニ依リテ漁場ノ良否ヲ速斷スルハ些カ早計タルノ譏ヲ免レザレド唯參考資料トシテ本年度調査セシモノヲ左表ニテ示サントス。

日 時	觀測位置	方 向	潮 速	水 温	比 重	水 深	底 質	海 況
四月廿八日 後八時	於佛珍島間	N	二・五	二二・二		〇	Sh	潮濁レリ
五月一日 後八時	於佛西方一哩	N	二・五	二四・五		二	全	
五月三日 前六時	魚龍島北方半哩	N	〇・五	二二・二		〇	全	
五月六日 後三時	於佛西方半哩	S	二・〇	二四・八		〇	全	潮濁レリ
五月八日 前八時	魚龍於佛間	N	二・〇	二四・七		三	全	
五月九日 前十二時	珍島於佛間	N	一・〇	二四・六		二	全	
五月十日 後十二時	於佛魚龍間	W	二・〇	二四・一	1.0142	三	全	
五月十一日 前六時	於佛西方六哩	SE	一・五	二四・一	1.0142	七	全	
五月十二日 後九時	魚龍西方一哩	W	一・五	二四・三	1.0142	三	全	
五月十三日 後八時	於佛西方二哩	NW	〇・五	二四・二	1.0142	三	全	

五月十四日	於佛西方三哩	1.0	12.0	1°01'25"	11	全
後八時	於佛西方三哩	1.0	12.2	1°01'25"	11	全
五月十五日	同 右	1.0	12.1	1°01'25"	11	全
後八時	同 右	1.0	12.1	1°01'25"	11	全
五月十六日	魚龍北方四分ノ一哩	1.0	12.5	1°01'25"	11	全
後七時	魚龍北方四分ノ一哩	1.0	12.5	1°01'25"	11	全
五月十七日	於佛西方一哩	1.0	12.6	1°01'25"	10	全
前四時半	於佛西方一哩	1.0	12.6	1°01'25"	10	全
五月十八日	魚龍北方四分ノ一哩	0.1	12.5	1°01'25"	11	全
前八時	魚龍北方四分ノ一哩	0.1	12.5	1°01'25"	11	全
五月十九日	於佛西方四哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
前八時	於佛西方四哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
五月廿一日	於佛南方二哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
後八時	於佛南方二哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
五月廿四日	金島東方半哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
前八時	金島東方半哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
五月廿五日	貴子島沖東南三哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
後八時	貴子島沖東南三哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
五月廿六日	接島東方約三哩	0.2	12.8	1°01'25"	11	全
後八時	接島東方約三哩	0.2	12.8	1°01'25"	11	全
五月廿八日	於佛島沖西三哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
後八時	於佛島沖西三哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
五月廿九日	於佛西方約五哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
後八時	於佛西方約五哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
五月卅一日	同 右	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
後八時	同 右	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
五月卅二日	於佛西方約三哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
後八時	於佛西方約三哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
五月卅三日	於佛西方約六哩	0.2	12.7	1°01'25"	10	全
後八時	於佛西方約六哩	0.2	12.7	1°01'25"	10	全
六月一日	於佛西方約四哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
後八時	於佛西方約四哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
六月二日	於佛西方約五哩	1.0	12.7	1°01'25"	9	全
後八時半	於佛西方約五哩	1.0	12.7	1°01'25"	9	全
六月三日	於佛西方二哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
前四時半	於佛西方二哩	1.0	12.7	1°01'25"	11	全
六月四日	於佛西方二哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
前八時	於佛西方二哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
六月五日	於佛西方二哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全
後八時	於佛西方二哩	1.0	12.7	1°01'25"	10	全

1.4

潮流速
潮流速

六月五日	於佛西南三哩	1.0	12.0	1°01'25"	11	全
後八時	於佛西南三哩	1.0	12.0	1°01'25"	11	全
六月六日	同 右	0	12.2	1°01'25"	11	全
後八時	同 右	0	12.2	1°01'25"	11	全
六月七日	於佛金島間	1.5	12.5	1°01'25"	11	全
全十時	於佛金島間	1.5	12.5	1°01'25"	11	全
六月八日	金島東方二哩	1.0	12.5	1°01'25"	8	全
前四時	金島東方二哩	1.0	12.5	1°01'25"	8	全
六月九日	於佛西北一哩	1.0	12.5	1°01'25"	11	全
後八時	於佛西北一哩	1.0	12.5	1°01'25"	11	全
六月十日	於佛西方二哩	1.0	12.5	1°01'25"	11	全
後九時	於佛西方二哩	1.0	12.5	1°01'25"	11	全

右ノ表ハ單ニ潮流、水温、比重、水深、底質、海況等ヲ調査セル儘ニ羅列シタルニ過ギザレ共是等ノ諸項ハ船ノ移動消長ニ密接ノ關係アルモノナレバ該魚ノ習性ト結び付ケテ尙充分ノ研究ヲ要スル事勿論ナリ。
尙漁場中注意スベキ點ハ魚龍島東方ニ於ケル潮流ニシテ殊ニ大潮ノ干満ノ際ハ渦流ヲ生ジ速度急激ニシテ爲ニ網ヲ奪ハル、虞ナシトセズ。又接島島近クニハ瀬アリ、最モ注意ヲ要スル箇所ナリ。本年度ハ沖ヘ走ル潮流強ク思ハザル所ニ流サレ爲ニ操業困難ノ場合往々アリキ、特殊ノ海況ニ依ルナルベシ。

漁 期

漁期ハ漁場ノ位置ニ依リテ異ナレ共大体ニ於テ三月二十日頃ハ麗水近海ガ盛漁期ニシテ夫レヨリ漸次西南方ヘ移動シ四月上旬ヨリハ於蘭鎮ヘ來リ此處ニテ約一ヶ月半止マリテ北方ヘ移動スルモノ、如シ。
操業ハ晝間ハ不可ニシテ夜間ヲ良シトス、之レ晝間ハ魚群沈下シ又網ノ認知容易ニシテ魚群ノ之ヲ避ケル爲メ網率少ク之ニ反シ夜間ハ魚群ノ餌ヲ求メントシテ浮游スルト又網ノ認知困難ナルトニ依リ網率多クシタナリ。本年度試驗ノ結果ニ徴スルモ晝間ハ潮濁レル時ト雖モ漁獲殆ンド無カリキ。サレド産卵期ニアリテハ晝間ノ方夜間ヨリ反ツテ網率

多キハ該魚ガ放卵ノ爲水面近ク躍動スルガ爲ナリト云フ。

操業及ビ漁獲物處理ノ概要

四月三十日操業ヲ開始シ六月八日全ク終了セリ。其日數四十日中二十九日ノ出漁ヲ見タリ。之レ本年度ニ於テハ天候不順ナリシ爲ナリ。而シテ網ノ仕立ニ着手セシハ四月十四日ニシテ操業ヲ中止シ整理ヲ完了セシハ六月二十三日ナレバ其間ノ日數ヲモ加算スル時ハ該試驗ニ要シタル時日ハ實ニ七十日ヲ計上セリ。

漁獲高ニ於テハ其數量參千七百十七尾ニシテ出漁日數二十九日ニ對シ一日均平百二十八尾強ニ當リ價格ニ於テハ總額六百貳拾參圓八拾七錢ニシテ一日平均貳拾壹圓五拾壹錢強ニ當ル。

漁獲物ノ種類ハ鱒ヲ第一トシ鱒之レニ次ギ其他鱒、石首魚、大刀魚、鯛、鱧、マナカツヲ等ナリトス。是等ヲ表ニテ示セバ左ノ如シ

月次	日出日數	漁具使用回数	操業時間	種類	數量	價格	販賣地
五月	三	二五	二〇八、五	鱒、鱒、雜魚	三、四九	五六、五二	於 蘭 鎮
六月	七	七	五、〇	鱒、鱒	一六	三七、三六	全
計	元	三	二六、五		三、七七	六三、八七	

收支決算

本年度ニ於ケル鱒流網漁業試驗ハ前年度ト同様岡山縣和氣郡日生町現時朝鮮全羅南道海南郡於蘭鎮吉備村移住ノ中村壽吉ト共同經營法ヲ採レルヲ以テ一般當業者ノ經營法トハ其趣キヲ異ニスルヲ以テ前年度報告ト重複スル嫌ハアレドモ先

ヅ其方法ヲ記サントス。

一、本場ハ漁網一式ヲ提供シ且ツ其修理ニ要スル一切ノ費用ヲ負擔ス。

中村壽吉ハ漁船一艘及ビ漁夫三名ヲ提供シ且ツ試驗中ノ漁夫食料費及ビ漁船修理其他ノ費用ヲ負擔ス。

一、漁獲收入ハ左記計算法ニ基ク金額ヲ双方分配スルモノトス。但シ薄漁ノ爲齋經費ヲ償フニ足ラザル場合ハ此限ニ非ズ。

總漁獲金高ヨリ漁夫給料相當額貳百七拾圓也及ビ漁夫食費相當額壹百八拾圓也ヲ控除シ其殘額ヲ次ノ如ク分配ス。

殘額ノ三割五分

水產試驗場

殘額ノ六割五分

中村壽吉

計 算 書

一金六百貳拾參圓八拾七錢也

總漁獲收入金

內

一金貳百拾圓也

漁夫給料相當額(漁夫三名七十日分)

一金壹百四拾圓也

漁夫食費相當額(全 右)

差引殘金一金貳百七拾參圓八拾七錢也

內

一金九拾五圓八拾五錢也

水產試驗場分(三割五分)

一金壹百七拾八圓貳錢也

中村壽吉分(六割五分)

是ヲ要スルニ本年度ノ如キハ漁期ヲ失シタルガ爲ニ充分ナル操業ヲ爲シ得ズ從ツテ大ナル漁獲無カリシト雖モ尙日數割トセバ相當ノ成績ヲ擧ゲ得タリト云ヒ得ベク前以テ準備ヲ整ヘ置キ三月二十日頃出漁シ先ヅ麗水附近ヨリ盛漁ヲ追ヒテ漸次於蘭嶼ノ沖合ニ到ラバ一漁期ニ壹千五百圓以外ノ漁獲ヲ擧グルコト至難ニ非ザルベク其經營宜シキヲ得バ本漁業ハ決シテ失損ヲ招クガ如キ事ナキヲ信ズ。

鯖流網漁業ト氣象海況トノ關係

鯖ハ朝鮮沿海ニ於テ南ハ慶尙南道巨濟島沿岸ヨリ巨文島ノ北方ヲ過ギ青山島及ビ珍島東海馬路海ニ亘リ西ハ牛耳島附近木浦港口莊子島及ビ平安北道蔚山沿岸ヲ經テ仁川港口マデモ廻游スルモ期節ニ依リ其分布ノ狀態ヲ異ニシ又氣象海況ニ依リ期節ニ變動アリ。即チ該魚ノ廻游ハ氣象海況ト密接ナル關係アルモノナレバ其海洋調査ハ最モ緊急ノ事ナリトス。今漁業日誌ヨリ計算スル時ハ本年度試驗ニ於ケル平均比重一、〇二四八四弱、水温一六、七度弱、氣温一七、一度強トナレドモ前年ハ盛漁期ニシテ後半期ハ終漁期ニ向ヘル時ナレバ其間自ラ氣象海況ノ上ニ差異アルコトヲ認メザルヲ得ズ。今之レヲ對比シテ表ニテ示セバ左ノ如シ。

比重、水温、氣温、漁獲	前 半 期		後 半 期		較 差
	平均	最高	平均	最高	
平均比重	1,018.1	1,018.6	1,018.5	1,018.5	0.0000
最高比重	1,018.6	1,018.6	1,018.3	1,018.3	0.0000
最低比重	1,018.4	1,018.4	1,018.1	1,018.1	0.0000
平均水温	15.4	15.4	17.9	17.9	2.5
最高水温	17.5	17.5	19.6	19.6	2.1
最低水温					

最低水温	前 半 期		後 半 期		較 差
	平均	最高	平均	最高	
平均氣温	16.3	16.3	18.0	18.0	1.7
最高氣温	18.3	18.3	20.0	20.0	1.7
最低氣温	12.5	12.5	16.5	16.5	4.0
一日平均漁獲高	36,700	36,700	56,600	56,600	19,900

後半期ニハ漁船五十艘以上新タニ出漁シタル爲多少漁場ニ荒廢ヲ來シタル傾向アリタリ。

鯖ノ産卵期及ビ放卵狀態

鯖ノ産卵期ハ年ニ依リ多少異ナルト雖モ本年ノ如キハ天候不順ニ依リシ爲カ例年ヨリ稍早ク六月初旬ヨリ放卵シ初メタルモノ、如シ(普通鯖ノ産卵期ハ六月下旬ヨリ七月中旬迄)サレバ其頃ハ産卵ニ適セル於蘭嶼沖馬路海ハ鯖ノ止マルモノ多キ筈ナレド出漁船多クシテ海面ヲ所狭キ迄操業シ居タレバ魚群ハ之ニ脅カサレテ沖合遠ク廻游シ去リ漁獲セラレタル鯖ハ不成熟ノモノ及ビ小ナル幼魚ノミナリキ。而シテ各成熟セル鯖ノ卵ヲ見ルニ一ハ非常ニ大ニシテ成熟シ居ルニ反シ他ハ小ニシテ不成熟ナル点ヨリ見レバ放卵ハ二期ニ分レテ爲スモノト考ヘラル。

漁具改良ニ關スル意見

前年度試驗ニ依リ改良セラレタル本年度ノ漁具ニモ尙改良スベキ点アリ。左ニ項ヲ分チテ改良ヲ要スル諸点ヲ述ベン。
第一、網裾ニカツオガカリ又ハ鯛ガカリヲ附ス事

之レ普通ノ流網ニテスラ鯛、マサガツオノ捕獲セラレ、ニ依リテモ之レヲ附スルノ要ヲ認ム

第二、麗水ヨリ從漁セントスルモノハ出來上リ四反四百間ヲ要スル事

浮子繩ハ四尋或ヒハ五尋トスル事

之レハ漁場ノ水深ニ依ル

第三、網目ハ三寸五分目トスル事

第四、網地ニ輕キ沈子ヲ附スル事

之レ潮流ノ爲メ網裾ノ吹上グラル、ヲ防グガ爲ナリ。

漁獲金額少ナカリシ原因

總漁獲金額ニ於テ本年度ハ前年度ニ比シ約三百五十圓少ナカリシ原因ハ

第一、初漁期ヨリ約一ヶ月遅レテ從業シタル事、從テ盛漁期ノ半バヲ失シタル事

第二、氣象海況ニ變化甚ダシカリシ事

第三、網ノ反數少ナカリシ事

第四、本縣下和氣郡日生町ノ鮭流網漁船數十艘一時ニ出漁シタル爲メ漁場荒廢シタル事

然レドモ前述ノ如ク其出漁日數ニ對比スル時ハ前年度ニ比シ遙カニ好成績ナリシコト明白ナリ。

鮭流網漁業ニ對スル意見

前年度及ビ本年度試驗ニ徴シテ本漁業ニハ綿糸ヨリ麻糸ヲ使用スル方得策ナリト信ズ。其理由ハ麻糸網地ナレバ綿糸網ニ比シ耐久力遙カニ強ク又鮭ノ羅網スルモノ多クシテ同時ニ鮭モ綿糸網ニ比シ遜色ナキ程羅レバナリ。而シテ麻糸網地ヲ用フル時ハ綿糸ノ八本乃至十本合セ位ニ相當スル細糸ヲ用フルヲ良シトス。

漁船ハ肩六尺五寸位ノ輕快ナルモノ良ク、其理由ハ元來本漁業ハ沿岸性ノモノナレバ左マデ大ナル船ヲ要セザレバナリ。

而シテ出漁ハ先ヅ三月下旬南海道麗水近海ヨリ初メ四月初旬ニハ於蘭鎮沖ニ六月半バヨリ漸次牛耳島仁川沖迄モ出漁スルヲ良シトス。然ラバ春漁ハ決シテ損失ヲ招クコト無カルベシ。

鮭漁業ニ菅網使用ニ關スル意見

右ハ本縣上道郡津田村松本鶴造ノ使用ニ係ルモノニシテ朝鮮ニ於テ菅網使用ノ嚆矢ナリ。本網ハ邑久郡玉津村尻海木下松太郎ノ製作ニ係リ主トシテ本試驗場ノ網地ニ準ジタルモノニシテ網目ハ三寸二分ニシテ百掛一反ニ付キ上下ニ綿糸十掛三寸二分目ノモノヲ使用シ他ノドンブリ等モ同様ノモノヲ用ヒ裾ニ沈子（鉛製約十七匁）ヲ二尋毎ニ附シタリ。網糸ハ綿糸二本合セ位ニ相當スル太サノモノヲ用フ。

本網使用ノ際ハ既ニ漁期遅レシ爲メ漁獲無カリシカド通觀シテ左ノ欠點ヲ認メタリ。

第一、網糸細キ爲メ絡レ易ク操業困難ナルコト

第二、網地輕キ爲メ當漁場ノ如キ潮流速キ所ニテハ流サレ易ク又網裾ヲ吹上グラル、處多キコト

第三、網丈ケ短キコト

第四、本漁場ノ如キ魚群ノ大ナル所ニテハ魚ノ爲メ網ヲ破失スルノ虞アルコト

以上ノ欠點ヲ補足スルニハ網裾ニ麻網地或ヒハ綿糸網地五十掛ノモノヲ附スルヲ要ス。

朝鮮海鮭流網漁業調査日誌

月日	漁場	観測時天候	向風風力	氣温	水温	比重	向潮	速潮	質底	深水	時間	漁種	漁獲量	金額	販賣地	備要
十月四日	於佛島西北	曇	N	一五.八	一四.〇	一.〇一〇七	N	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月五日	於佛島珍島間	晴	W	一七.〇	一六.五	一.〇一〇七	E	2	Sh	二八時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月六日	於佛島魚龍島間	晴	W	一七.二	一七.〇	一.〇一〇八	EE	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月七日	於佛島西方	晴	W	一六.八	一六.三	一.〇一〇八	E	2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月八日	於佛島魚龍島間	晴	E	一五.二	一五.〇	一.〇一〇七	E	1.4	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月九日	於佛島西北	晴	E	一八.三	一七.五	一.〇一〇七	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十日	於佛島西北	雨	S	一六.二	一五.五	一.〇一〇七	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十一日	於佛島ノ西南	晴	W	一八.三	一七.五	一.〇一〇八	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十二日	於佛島ノ西南	晴	W	一八.三	一七.五	一.〇一〇八	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十三日	於佛島金島間	晴	W	一六.八	一六.三	一.〇一〇七	E	3	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十四日	貴子島南東沖	晴	NE	一七.五	一七.〇	一.〇一〇八	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十五日	接島東方沖	晴	NW	一六.五	一六.〇	一.〇一〇七	E	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十六日	於佛島西南	晴	E	一七.二	一六.八	一.〇一〇七	E	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十七日	於佛島西南	晴	E	一七.三	一六.八	一.〇一〇七	E	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十八日	於佛島西南	晴	E	一七.三	一六.八	一.〇一〇七	E	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十日	於佛島ノ西南	晴	W	一八.三	一七.五	一.〇一〇八	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十一日	於佛島ノ西南	晴	W	一八.三	一七.五	一.〇一〇八	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十二日	於佛島ノ西南	晴	W	一八.三	一七.五	一.〇一〇八	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十三日	於佛島金島間	晴	W	一六.八	一六.三	一.〇一〇七	E	3	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十四日	貴子島南東沖	晴	NE	一七.五	一七.〇	一.〇一〇八	SW	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十五日	接島東方沖	晴	NW	一六.五	一六.〇	一.〇一〇七	E	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十六日	於佛島西南	晴	E	一七.二	一六.八	一.〇一〇七	E	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十七日	於佛島西南	晴	E	一七.三	一六.八	一.〇一〇七	E	1	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十八日	於佛島西南	晴	SE	一八.三	一七.五	一.〇一〇七	SE	2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		

二五

網袋メノ爲メ休漁

漁少キト連日ノ疲勞トニヨリ休漁

網袋メノ爲メ休漁

月日	漁場	観測時天候	向風風力	氣温	水温	比重	向潮	速潮	質底	深水	時間	漁種	漁獲量	金額	販賣地	備要
十月十三日	於佛島魚龍島間	晴	E	一七.三	一六.三	一.〇一〇七	NW	2	Sh	二九時間半	ヒラ	七	一〇,〇〇〇	於佛島		
十月十四日	於佛島西方	晴	E	一八.二	一七.二	一.〇一〇七	NW	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十五日	於佛島西方	晴	E	一八.二	一七.二	一.〇一〇七	NW	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十六日	於佛島西方	晴	NE	一五.六	一五.〇	一.〇一〇七	SEW	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十七日	於佛島西方	晴	NN	一四.八	一四.三	一.〇一〇七	SEW	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十八日	於佛島西方	晴	NN	一四.八	一四.三	一.〇一〇七	SEW	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月十九日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十一日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十二日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十三日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十四日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十五日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十六日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十七日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		
十月二十八日	於佛島西方	晴	N	一六.二	一五.七	一.〇一〇七	N	1.2	Sh	二九時間半	ヒラ	二五	三,〇〇〇	全		

二四

網袋メノ爲メ休漁

暴風機標依然タレバ休漁

北風強キタメ休漁

五馬路島へ避難

暴風ノ爲メ休漁

右水警艇泊

漁獲高ハ前日分チ舎ム

保木

管船

於蘭鎮ノ將來

名	前年度	本年度	較
出漁日數	五十六日	二十九日	前年度ヨリ
平均氣温	十七、八度強	十七、一度強	〇、七度低シ
平均水温	十八、二度強	十六、七度強	一、五度低シ
平均比重	一、〇二四七三	一、〇二四八四	〇、〇〇一一高シ
湖平均速	一哩乃至二哩	前年ヨリ稍速シ	稍速シ
漁獲時ノ平均水深	六月中旬ヨリ	六月初旬ヨリ	約十日位早シ
產卵期	一〇、二尋	一一、二尋	一尋深シ
總漁獲數量	七三七六尾	三七七七尾	三六五九尾少シ
金魚	九三五、二八圓	六二三、八七圓	三一二、四一圓少シ
一日平均漁數高	一三一尾強	一二八尾強	三尾少シ
一日平均金額	一六、七〇圓	二一、五一圓	四、八二圓多シ

本年度試驗ノ結果ヲ綜合シテ前年度ト比較シタルモノヲ表ニテ示セバ

前年度トノ比較

十全四日	十全三日	十全一日	九全一日	八全一日	七全一日	六全一日	五全一日	四全一日	三全一日	二全一日	一全一日	六全一日	三十一日	三十日	二十九日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
正午雨	正午雨	正午雨	正午晴	後九時晴	後八時曇	前四時晴	後八時晴	正午晴	後八時雨	前六時晴	後八時晴	後八時晴	後八時晴	後八時晴	後八時晴
4	1	5	4	0	2	1	1	2	3	3	1	1	1	0	1
				一九、三	一八、八	一八、八	一九、〇	一八、六		一八、三	一八、〇	一八、〇	一八、〇	一七、五	一八、〇
				一八、八	一八、八	一八、八	一九、〇	一八、六		一八、三	一八、〇	一八、〇	一八、〇	一七、五	一八、〇
				一、〇四八	一、〇四八	一、〇四八	一、〇四八	一、〇四八		一、〇四八	一、〇四八	一、〇四八	一、〇四八	一、〇四八	一、〇四八
				E	E	E	SW	SW		W	W	W	W	E	E
				2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
				Sh	Sh	Sh	Sh	Sh	Sh	Sh	Sh	Sh	Sh	Sh	Sh
				三七時間半	三四時間	八九時間	二九時間十分	二九時間	二九時間	二九時間	二九時間	二九時間	二九時間	二九時間	二九時間
				サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ	小サソラ
				四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
				二、一〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全	〇、二〇全
				全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
				全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

荒天ノ爲メ休漁

網干ノ爲メ休漁

當於關鎮ハ朝鮮全羅南道ノ中央海岸線上ニ位シ木浦ヨリ約四十哩ノ東方ニアリテ朝鮮屈指ノ漁場タル青山島、麗水、羅山列島ヘハ和船ニテモ一晝夜ニテ充分到達スルヲ得ベク漁業上誠ニ好適ナル地位ヲ占ムルノミナラズ又附近ニハ廣大ナル開墾地アリテ耕耘ニ適ス。

而シテ港ノ前面ニハ於佛島アリテ南風ヲ遮ギリ西端ノ岬ハ能ク西風ヲ防グモ唯東風吹ク時ハ之レヲ遮ルモノナシ。若シ此處ニ築港ヲ完成センカ陸産物ノ集散意ノ儘トナリ漁船ノ出入幅狭シテ木浦ニ讓ラザル漁港トナルコト疑ヲ容レズ。又學校組合ハ既ニ許可セラレ郵便局モ近キウチニ設置セラルベク陸上ノ交通機關トシテハ自動車ノ便アリ。氣候ハ内地ト大差ナケレドモ冬期ニ於テ稍寒冷ヲ覺ユ。

唯、港内ノ水深淺キガ遺憾ノ點ニシテ之レ築港ノ急務タルヲ痛切ニ感ズル所以ナリ。風俗ハ質トシテ鮮人ハ概ネ性質温順ニシテ内地人ヲ敬ヒ親シムノ念厚シ。

本地ヲ根據地トシテノ漁業ハ比々皆可ナラザルハナク魚族ノ豊富ナルコト驚ク許リニシテ從來酷魚濫獲ノ弊ナキ爲メ其遲鈍ナルコト折釘ニ細網ヲ付スルモ尙能ク釣ル事ヲ得ル一事ニテモ知ルベシ。鱈及ビ鮭ノ豊富ナル事ハ既ニ定評アリ。其他鰹、鰯、イナ、蝦等多ケレバ建網、建干ニ適シ潮速ハ二三哩ヲ過ギザレバ鮫鱈網ニヨク、鱈、鰹、マナガツオ、蝦等ノ延繩、其他鱈、チヌノ一本釣、壺網等モ用ヒテ面白カルベシ。アナゴ、エビハ秋口ノ漁ナレバ之ヲ専門トスル漁業及ビ鰹其他ノ集魚多ケレバ縛網ニモ適ス。

是ニ由リテ是ヲ觀ルニ於蘭鎮ノ前途實ニ洋洋タルモノアリ、之ガ補助ヲ加ヘズトモ近キ將來ニ於テ目覺シキ發展ヲ遂グルコト疑ナク而カモ之ガ發展ニ一層ノ力ヲ注ガバ朝鮮有數ノ漁業地トナルコト期シテ俟ツベキナリ

築磯飼付漁業調査

一、本縣下ニ於ル築磯飼付漁業ノ價值ト本試験ノ趣旨

從來本縣海面ニ行ハル、漁業ヲ通覽スルニ其漁具漁法タルヤ改良ニ改良ヲ加ヘ頗ル完全スル所アレ共、唯單ニ魚介類ノ採捕方法ノミニ腐心シテ、人爲的ニ是ヲ誘集シ或ハ蕃殖ノ途ヲ講ジテ永久の漁業ヲナスヲ思ハズ爲ニ漁民ノ増加ト共ニ益々濫獲酷漁ニ陥リテ漁場ハ益々荒廢シ、實ニ寒心ニ堪エザル者アリ。加フルニ本縣海面ノ如キ狹隘ニシテ限アル漁場ニ於テ單ニ魚介類ノ採捕ノミヲ以テ漁業スベキ所謂原始的漁業ノ反復ハ漁獲ヲシテ益々減退セシメ、延イテハ漁民ノ生活状態ヲ彌ガ上ニモ低下セシメズンバ止マザルナリ。

茲ニ築磯飼付漁業ハ窮迫セル本縣沿岸漁業ヲ革新セシメ、從來行ヒ來リシ漁業ニ更ニ魚介類ノ誘集並ビニ蕃殖ナル意義ヲ與ヘ而シテ健實ナル漁業ノ發展ヲ期スル上ニ於テ當然爲サハルベカラザル施設ノ一タルヲ失ハザルナリ。

一、本縣下ニ於ル築磯飼付漁業ノ候補地

本縣下ニ於ケル築磯飼付漁業施設候補地トシテ本年度調査セルモノニ兒島郡日比町向日比、及ビ小田郡眞鍋島村アリ。向日比ニ於テハ湯之浦ト稱スル所ニシテ細長キ且ツ高キ天然磯アリテ現在ハ十隻乃至二十隻ノ釣漁船ノ出漁ニルアレ共、漁獲減退ト共ニ出漁船モ年々減少スル傾アリ。サレバ此ノ天然磯ト平行ニ築磯ヲ設ケテ其區域ニ魚類ノ蕃殖游泳ノ地ヲ作ラバ永久の好漁場トナリ容易ニ荒廢ノ憂無カルベシ。而シテ築磯施設上最モ障害ヲ來ス潮流ノ点ヨリ見テモ幸ニ當場所ハ緩漫ナル渦流ノアルノミナレバ沖ノ潮流如何ニ速クトモ此處ノミハ影響ヲ受ケズ。築磯施設後モ境埋ノ憂無ク單ニ割石落下ノミニテ事足ルナリ。

又全所ハ飼付ニモ適當ノ場所ニシテ蝦、蟹ノ蕃殖ヲ圖ルニ適ス。往時其場所ニ潮貝蕃殖シテ漁獲多カリシモ今ハ全ク採

貝者ノ濫獲ニ遇ヒ其跡ヲ止メズ、從テ往時ノ豊漁モ望マレズ、漸次從漁者ノ數ヲ減ジツ、アリ。
 次ニ眞鍋島村ニ就キテ調査セル所ヲ記セバ、當眞鍋島漁業組合ハ北木島及ビ白石島漁業組合等ト利害關係ヲ同ジウシ居
 リテ二三年前ヨリ常ニ築磯飼付ノ成績良好ナルベキヲ認メ切ニ施設ノ希望アリ、昨春香川縣下小豆郡四海村字小江ニ於
 ル飼付ヲ調査シ歸リテ、大正八年十一月ニハ白石島村漁業組合ト協議ノ上、米糠俵二十俵或ハ三十俵宛五ヶ所ニ沈下シ
 飼付ヲ試ミタレドモ時期ヲ失シタリシガ爲好結果ヲ得ザリシハ遺憾ナリシガ、少クモ該施設ハ三四月頃ヨリ八月頃迄ノ
 間ニ終了セザレバ魚群逸散シテ効果ナキナリ。

組合既ニ築磯飼付漁業ノ有利ナルヲ認メ、單獨ニテ之ヲ行ヒシ程ナレバ場所ノ適當ナルハ勿論、大字岩坪ノ如キハ全部
 釣漁業者ノミニシテ其船數五十隻ヲ算シ、尙増加ノ傾向アリ。斯ノ如ク漁業者ガ其數ヲ増加スルニ從テ魚類ハ益々濫獲
 セラレ、爲ニ漁場ハ荒廢シ昔日豊漁ノ面影ナク唯目下魚價ノ昂騰ノ爲ニ漸ク生活シ得ル状態ニアレバ一度魚價低落セン
 カ、彼等ノ窮狀逆路スルニ難カラズ。從漁者赤將來ヲ憂慮セザルニ非ザレ共、生活上止ムヲ得ズ一時ノ安ヲ貪リ居ル狀
 態ナリトス。即チ之ガ救済ノ爲、將又將來ノ基礎ヲ固メテ漁業者ヲシテ長ク其業ニ従事セシムルニハ唯飼付築磯漁業ヲ
 一日モ速カニ完成セザルベカラザルナリ。

先ヅ此眞鍋島ニ於テ其附近ノ海底ヲ見ルニ天然磯多クシテ、磯間各所ニ点在シアルモ皆荒廢シテ唯其根跡ヲ止ムルノミ
 ナリ、而シテ調査ノ結果左ノ數ヶ所ヲ築磯及ビ飼付候補地トシテ適當ナルヲ認メタリ。

一、鍋蓋島(モドコ島ト稱ス)ノ東側

漁業者ガ俗ニ「ミサキグヒ」ト稱スル場所ニシテ天然磯左右ヨリ突出シ居レ共、其間隔餘リニ大ナル爲、未ダ釣漁業者
 ノ從漁セシコトナキモ、水深十二尋内外ニシテ底質ハ砂礫、潮流又適當ナレバ其中間ニ築磯セバ好漁場トナルベシ。

二

鯛網漁業者ノ出漁スル場所ナレ共、其了解ヲ得レバ築磯飼付場所トシテ適當ノ地ナリ。水深十尋内外、潮流急ナラズ、
 底質ハ砂礫。

三、眞鍋島天神鼻ノ東側及西側

天神鼻ヲ挾ム東西ノ海面ハ天神鼻ノ根突出シテ天然磯ヲ爲シ、水深五六尋ナレバ兩海面トモ飼付場所トシテ適當ナルベ
 シ。

四、眞鍋島ノ南岩日方間沖

玄濱鼻ト矢崎ニ扼セラル、瀬ノ中央部ニシテ本年度築磯飼付ヲ實施シタル場所ナリ。水深六尋乃至七尋(満潮時)潮流
 稍急ナリ。

二、築磯施設ノ實施

施設迄ノ概況

本縣トシテ最初ノ試ミナル築磯ハ別圖第二圖ニ記載セル如ク、眞鍋島村ノ南岸「日方間沖」ニ於テ大正九年八月二十九
 日及ビ三十日ノ二日間ニ於テ支障ナク施設セラレタリ。今之ガ施設ノ狀況ヲ述ベンニ大正九年二月十三日築磯ニ關シ場
 所ノ選定ヲ終了シ、七月十八日施設ニ關シ打合せ及ビ場所確定ヲ決議シ、八月三十日沈船セシメタリ。時期トシテハ少
 シク遅延シタル憾アレ共、當組合ハ小田郡聯合會ノ下ニアレバ其承認ヲ得ルニ尠ナカラズ時日ヲ要シタルガ爲ニシテ、
 即チ最初ノ豫定ニテハ七月二十日前後ニ施行スル筈ナリシモノナルガ八月三十日施行スルノ止ムヲ得ザルニ至リシナ
 リ。

築磯實施ノ方法

八月二十九日船ノ作事及ビ石、糠俵ノ準備ヲ終了シ、翌三十日沈船ヲ觀測場所ニ繋留シ其兩側ニ石積船ヲ二隻配置シ、午後二時潮満ヲ計リテ先ヅ糠俵二十俵ヲ沈船ノ表ノ間、及ビ船ノ間ニ積載シ其上ヲ石ニテ抑ヘ次ニ船ノ中央ニ割石ヲ投入シキタルニ、其面積約一坪ニ達セザル中ニ早クモ船ハ平均ヲ保チツ、沈降シ行クヲ見タリ。而シテ船ニハ破損セシ箇所ナシ。之ヨリ曩ニ沈船ノ船首尾兩舷側ニ各二個ヅ、都合四個ノ目標浮木ヲ水深ト同長ノ網ニテ附シ、沈船後各目標浮木ノ中央（即チ沈船上）ト認ムル所ニ割石ヲ投下シ、尙其附近ニ二人抱エ大ノ大石數十ヲ捨石トシテ投下セリ、右終了セシ時午後二時五十分、之ニ要セシ時間ハ催カ五十分ニシテ計劃通り都合好ク終了セリ。

沈船使用人員

沈船拾石係	二十四名	(割石積載船ニ分乘ス)
割石積載船	四名	(一名女)
糠俵運搬船	四名	二隻 (肩十五尺ノ船)
監督船	十五名	二隻 (肩六尺ノ釣船)
合計	四十七名	五隻 (肩六尺ノ釣船)
沈船ノ方向及ビ位置	九隻	

唐森ト佐柳島南端ノ見通線 (船首方向佐柳島)
矢崎ト牛島高所見通線

觀測時

午後二時三十分、天候晴、風向東、風力一、潮向東、潮速二哩、暑氣甚ダシ。

觀測位置

城山	十四度三十分
矢崎	二百三十八度三十分
高戸山	百二十度
水深	

小湖ノ滿潮時ニ於テ六尋三尺
大潮ノ滿潮時ニ於テ七尋二尺

最初ノ豫算計劃

一金壹百六拾五圓也

内譯

一金五拾圓也	沈船用古船壹隻
一金七拾圓也	割石十五立坪 (積込費共)
一金五圓也	標識柱貳本
一金拾五圓也	船付人夫拾人
一金貳拾圓也	麥糠拾石
一金五圓也	空俵五拾俵

實施ニ要セシ實費

一金壹百六拾八圓四拾錢也

内譯

一金五拾圓也
 一金參拾貳圓貳拾錢也
 一金四拾貳圓參拾貳錢也
 一金貳拾六圓也
 一金八圓參拾八錢也
 一金四圓五拾錢也
 一金五圓也
 差引超過
 一金參圓四拾錢也

古船一隻約拾七噸積(長四十五尺幅一丈五寸深四尺八寸船齡十五年以上)
 米麥糠拾石代(拾六圓也米糠四石、拾六圓貳拾錢也麥糠六石)
 人夫四拾九人(晝食其他一切、人夫賃組合負擔)
 沈船用石材約七坪(船賃共)
 古船修繕費
 漁場實測用船賃
 材料(糠其他)買入渡海船賃及ビ積卸仲仕賃共

養殖部

流水養魚委託試驗

本試驗ハ育水潤澤ナル地方ニ於ケル流水養魚ノ模範ヲ示シ其發達普及ヲ圖ラントスルニアリテ、上房郡有漢村金岡助九郎、秋葉佐登藏ニ委託シ養池三百五十四坪ヲ充用シ前年度ニ繼承シ養魚試驗ヲ續行シ前年度同様本場餌料比較試驗監守人ヲシテ技術ヲ兼任擔當セシメ銳意投餌方法魚苗ノ供給等ニ付キ改善ニ努メタリ

放養

前年繰越ノ二歲鯉三千三百七十二尾六十貫七百八十匁ヲ放養シ尙魚苗ハ至廉ニ且ツ豊富ニ得ル目的ヲ以テ本養魚池ノ一部ニ於テ同場養成ノ親魚ヨリ採卵孵化ヲ行フコト、ナシ是ヲ一二匁ニ養成シタル後其生長ノ迅速ヲ期スル爲メ附近ノ農家ニ五千九百尾ヲ配布シ初秋稻田ノ落水期ニ到リ回收ヲ行ヒ總尾數千四百六十八尾十七貫四百五十匁ニ達セリ。之ガ詳細左表ノ如シ

池別	全面積	魚種放養別		尾數	池重	分	尾數	坪重	分	平均一尾體重
		鯉	合							
四號池	四、六	前年繰越 本年放養	合	九、二 四、六	一〇、六 四、五〇〇	二〇、二 八、八	三三、九 九七、八	一一、一 一一、一	二、五 二、一	
五號池	一、四	前年繰越 本年放養	合	一、三 一、〇〇〇	一、五 一、〇〇〇	二九、一 七、〇	三三、七 七、九	一一、三 一一、〇	二、一 二、〇	
六號池	一、五	前年繰越 本年放養	合	一、四 一、六	三、九 三、二七〇	八、七 一、一	一四、六 一、九、八	一一、〇 一、八、〇	二、〇 一、八、〇	
計	三、五	前年繰越 本年放養	合	四、八 一、六	一六、〇 四、三六五	九、八 九、八	二六、八 二六、八	一一、一 一一、一	二、一 二、一	

餌料ハ五月五日ヨリ十一月三日迄ニ田螺、蚕蛹、麥糠等ヲ給餌セリ田螺ハ生鮮ノマ、碎切シ麥糠ハ干蚕蛹ト其煮汁ニテ混和煮熟セル後投與セリ是レガ各月ノ餌料種別投餌量ヲ舉グレバ左表ノ如シ

餌料名	月												計	
	五	六	七	八	九	十	十一	月	月	月	月	月		
田螺	二、六〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	二、六〇〇
干蚕蛹	〇、四九〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	八、四〇〇
生蚕蛹	一、三五〇	四、三〇〇	五、七〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、三〇〇	三、四〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、四一〇
麥糠	一、三五〇	四、三〇〇	五、七〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、三〇〇	三、四〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	二、五、四〇〇
合計	五、七九〇	一、一、〇〇〇	一、一、六〇〇	一、一、六〇〇	一、一、七〇〇	一、一、八〇〇	一、一、八〇〇	一、一、八〇〇	一、一、八〇〇	一、一、八〇〇	一、一、八〇〇	一、一、八〇〇	一、一、八〇〇	二、六、〇〇〇

備考 干蚕蛹ハ真庭郡落合町大月製絲場ヨリ生蚕蛹ハ上房郡中津井村工藤製絲場及巨瀬村鹽坪製絲場ヨリ購入セリ
生長度並ニ生産量

生長度ニ關シテハ本年度特別ノ調査ナキモ放養時及池浚時ノ成績ヨリ考察スレバ當歲鯉ハ二倍三分二歲鯉ハ二倍二分ノ生長ヲ示シ成績前年度ト比較スレバ稍良好ナルガ如シ

生産總量ハ四號池當歲鯉二歲鯉ヲ合シテ千二百四十六尾三十四貫四十八匁、五號池ハ當歲鯉二歲鯉ヲ合シテ千四百五十八尾五十四貫八百四十二匁、六號池ハ當歲鯉二歲鯉ヲ合シテ千六百五十五尾八十四貫百五十四匁ニ達シ之レヲ放養時ニ比較スレバ、増重率四號池ハ十二割五分、五號池ハ二割二分、六號池ハ九割九分ニシテ、歩減率四號池ハ七分、五號池ハ二割二分、六號池ハ五厘ナリ。更ニ各池ヲ通觀スレバ増重率十二割一分、歩減率一割一分ニシテ増重歩減何レモ前年ニ比シ優良ナル成績ヲ擧グルヲ得タリ即チ詳細次表ノ如シ

池別	放		養		生		販		賣		合		歩減及増重率
	尾數	平均體重	尾數	平均體重	尾數	平均體重	尾數	平均體重	尾數	平均體重	尾數	平均體重	
四號池	尾數	九三二	尾數	四〇六	尾數	一、三三七	尾數	一、二四六	尾數	一、二四六	尾數	一、二四六	〇、〇七
	平均體重	二、六六五	平均體重	四、八〇〇	平均體重	一、五、六五	平均體重	三、四、〇八	平均體重	三、四、〇八	平均體重	一、八、八三	
五號池	尾數	一一〇〇	尾數	八〇〇	尾數	一、九〇〇	尾數	一、二二五	尾數	一、二二五	尾數	一、二二五	〇、二三
	平均體重	一一、〇〇〇	平均體重	九、六〇〇	平均體重	二〇、六〇〇	平均體重	三九、五九二	平均體重	三九、五九二	平均體重	五、四、八四二	
六號池	尾數	一、四四二	尾數	一、一〇〇	尾數	二、五四二	尾數	一、〇四八	尾數	一、〇四八	尾數	一、〇四八	〇、〇〇五
	平均體重	三九、一一五	平均體重	二八、一八〇	平均體重	四三、三三五	平均體重	四九、〇〇四	平均體重	四九、〇〇四	平均體重	八四、一五四	
合計	尾數	三、三三二	尾數	二、七〇〇	尾數	六、〇三二	尾數	三、五二〇	尾數	三、五二〇	尾數	三、五二〇	〇、〇九
	平均體重	二七、一	平均體重	一八、〇	平均體重	二六、一	平均體重	四六、八	平均體重	四六、八	平均體重	五二、一	

餌料對生産

本年度ハ鯉七十八貫二百三十匁ヲ放養シ、餌料トシテハ田螺二石六斗二升、干蚕蛹八石四斗、生蚕蛹四斗一升、麥糖二十五石四斗ヲ投與シテ百七十三貫四十四匁ヲ生産セリ。鯉一貫匁ノ増肉ニ對シ田螺二升八合、麥糖二斗六升七合、干蚕蛹八升九合、生蚕蛹四合ヲ要シタルコト、ナリ更ニ之レヲ時價ニ評價對比セバ増肉價格ノ三割五分ノ餌料ヲ要シタルコト詳細左表ノ如シ

名	増肉壹貫匁ノ對スル餌料	金額	名	増肉壹貫匁ノ對スル餌料	金額	名	増肉壹貫匁ノ對スル餌料	金額
田螺	〇、〇二八	〇、〇二八	干蚕蛹	〇、〇二八	〇、〇二八	生蚕蛹	〇、〇二八	〇、〇二八
麥糠	〇、〇二八	〇、〇二八	干蚕蛹	〇、〇二八	〇、〇二八	生蚕蛹	〇、〇二八	〇、〇二八
干蚕蛹	〇、〇二八	〇、〇二八	生蚕蛹	〇、〇二八	〇、〇二八	麥糠	〇、〇二八	〇、〇二八
生蚕蛹	〇、〇二八	〇、〇二八	麥糠	〇、〇二八	〇、〇二八	田螺	〇、〇二八	〇、〇二八
合計	〇、〇二八	〇、〇二八	合計	〇、〇二八	〇、〇二八	合計	〇、〇二八	〇、〇二八

計	一、八二六
---	-------

經濟
本年度ハ前年度繰越鯉六十貫七百八十匁、當歲鯉十七貫四百五十匁ヲ放養シタルモノニシテ之ニ田螺、麥糠、生蠶蛹、干蠶蛹等ヲ給與シ可及的餌料ノ供給ヲ豊富ナラシメ豫期ノ生長ニ近カラシムルヲ得タルモ本年度ノ放養鯉僅少ニシテ豫定數ニ達スルコト不可能ナリキ。是レガ爲前年度繰越魚相當アリシモ次年度繰越魚ノ關係上賣上高豫定額ニ及バズ、支出金額ニ對シ僅ニ約一分四厘ノ收益ニ過ギザリシハ遺憾ノ極ミニシテ、其詳細次表ノ如ク生産品中販賣鯉七十六貫七百七十匁ハ試驗池附近ニ販賣シ、九十六貫二百七十四匁ハ次年度ニ繼承飼育セリ。
本事業ハ前述ノ如ク兩三年前ヨリ其改善整理ニ着手シツ、アルモ種々困難ナル點アリシ爲メ成績良好ナラザリシモ、本年度ヨリ漸ク收利ノ曙光ヲ認ムルヲ得漸次當業者ノ技術モ圓熟シ相當生産量ヲ舉ゲ自立ノ基礎ヲ樹立スルニ至レリ。

收支決算表

費目	數量	單價	小計	摘要
鯉賣上額	七、七〇	五、九〇	三九八、四〇	繰越鯉一貫七百三〇匁代十四圓二十六錢雜魚賣上金其他
親鯉見積額	二、四〇〇	六、〇〇〇	一四、四〇〇	
繰越鯉見積額	九、二七四	四、〇〇〇	三八五、一〇〇	
雜收入			三二、二六〇	
計			八九一、一六〇	

支出ノ部

魚苗費	餌料費	飼料費	田螺	麥糠	生蠶	干蠶	計	常用人夫給料	臨時人夫給料	運搬費	借地料	備品費	消耗品費	修繕費	雜費	合計
三、〇〇〇	六、〇〇〇	一七、四五〇	四、〇八〇	二五、〇〇〇	一一、五〇〇	一〇六、四〇〇	二一六、五〇〇	十二ヶ月分	八、五〇〇	一ヶ月						一六、五〇〇
							三三、七〇〇									三、五〇〇
							六四、四七〇									二二、〇〇〇
							二九三、七〇〇									一〇七、五〇〇
							八、一六〇									二、〇七〇
							一〇七、五〇〇									六、一四〇
							二九三、七〇〇									一七九、一九〇
							六四、四七〇									二七、〇〇〇
							二九三、七〇〇									一〇三、〇〇〇
							八、一六〇									三三、七六〇
							一〇七、五〇〇									六五、八四〇
							二九三、七〇〇									一一、三三〇
							八、一六〇									三三、七六〇
							一〇七、五〇〇									二六、三九〇
							二九三、七〇〇									四四、七九〇
							八、一六〇									六二、七六〇
							一〇七、五〇〇									調餌用炭薪代其他ヲ含ム

收支對照表

収入金額	支出金額	差引益金	支出金ニ對スル益金歩合
二九、一六〇	八七、六六〇	一、五〇〇	〇、〇一四強

養魚餌料比較試験

本試験ハ前年度ニ繼承シ各種養魚餌料ニ就キ魚体ノ増肉スベキ比率ヲ査定シ經濟的ニ之レガ使用法ヲ研究スルヲ目的トシ、上房郡有漢村本場流水養魚委託試験池ノ一部面積四十六坪ヲ充用シ、乾蠶蛹ニ就キテハ前年度ヲ以テ終了シタルヲ以テ本年度ヨリハ生蠶蛹ニ就キ是レガ試験ニ着手セリ。

前年度ノ試験成績良好ナラザリシハ堤防不完全ナルニ起因スルモノニシテ、前年度修理セル箇所ハ完全ヲ期スルヲ得タルモノ、如ク思考セラル、ヲ以テ、本年度ハ放養ニ先立チ殘餘ノ部分中外側ノ用水ニ接セル箇所並ニ隣接池ヲ有セル箇所ヲ前年度同様ノ様式ナル「コンクリート」ニ板棚ヲ換ヘル必要ヲ認メ四月十二日ヨリ十六日迄ニ前記ノ箇所ノ修理ヲ行ヒタリ。

放 養

供試種鰻ハ良質ニシテ魚体ノ大小不同少ク且可及の大形ナルモノヲ揀定スルノ要アルヲ以テ、兒島郡八濱町地先ニテ捕獲スル種鰻七貫二百三十二匁千〇五十八尾、一尾平均体重六匁八分ノモノヲ購入シ五月二十八日坪當百五十七匁二分ノ割合ヲ以テ放養セリ。其大サ次表ノ如シ

体形	体長	体高	体重
大形	〇、九一	〇、四七	七、〇
小形	〇、七二	〇、三七	五、五
多形	〇、六六	〇、四六	六、八

餌 料

投餌ノ初期ハ餌付ノ好良ナルヲ圖ル爲メ六月七日ヨリ同月十六日迄ノ十日間ニ鹽漬餅六斗八升ヲ投與セリ。投餌期間ハ六月一日ヨリ十月十七日迄ニシテ此間ノ餌料名及數量ヲ各月別ニ表示セバ次表ノ如シ

餌料名	月別	六	七	八	九	十	月合	計
田螺		〇、〇〇〇						〇、〇〇〇
鹽漬餅		〇、六八〇						〇、六八〇
干蠶蛹		〇、一七〇	〇、二九〇					〇、五五五
生蠶蛹			〇、三三〇	〇、五〇〇	〇、四〇〇	〇、一三〇		一、四七〇

試験經過及成績

此間生長ノ經過ヲ述ベンニ本年度ハ生蠶蛹ノミヲ給與スル計劃ナリシモ原料ノ供給不如意ノ爲往々干蠶蛹ヲ補給セルヲ以テ豫期ノ生長ヲ見ザリシモ生長ノ速カナルヲ示シ成績稍好良ナルヲ得タリ。

調査期日	給餌月數	一尾平均体重	尾數	調査材	料量
放養當時 (五月二十八日)		六、八			

七月十二日	一ヶ月半	九、〇	二	二〇〇
八月十九日	三ヶ月	一三、〇	七	二〇〇
九月十六日	四ヶ月	一三、〇	二	二五〇
十月二十五日	五ヶ月	一四、〇	一五	二〇〇

十月二十五日池渡ノ結果ニ依レバ生産數量四貫九百四十匁、四百十尾平均体重約十四匁ニ達シ放養時ニ比セル生産量並ニ個体トシテノ生長度ハ稍良好ナルモ總体的ニハ猶良好ナリト言フヲ得ズ、是ハ養池ノ東側未修理ニシテ不完全ナル爲メ逸魚アリタルト多數ノ死魚ヲ出セルトニ起因スサレド其生長ハ前記ノ如キ變化ヲ以テ増重ヲ爲シ是レヲ放養時ニ比スレバ体重ニ於テ約二倍トナレリ。

今放養時ト取揚時トノ体形ヲ比較センニ左表ニ示スガ如シ

大形	小形	最多形	放			取		
			長	高	重	長	高	重
〇、九二	〇、三三	〇、三三	〇、四七	七、〇	一、三三	〇、三三	二〇、〇	
〇、三三	〇、三七	〇、三七	〇、四六	五、五	〇、九〇	〇、四五	七、〇	
〇、三三	〇、四六	〇、四六	六、八	一、三三	〇、六四	一、四〇	二四、〇	

要スルニ大正七年度並ニ八年度ニ於ケル干蠶蛹ニ依ル試驗ノ結果ハ初年度分ノ生長度ハ一、三倍次年度ハ一、九倍ヲ示シタルヲ以テ之ヲ本年度生蠶蛹ニ依ルモノト比較對照スル時ハ初年度ニ對シテ一、五倍弱ノ數字ヲ得益々生蠶蛹ノ干蠶蛹ニ比シ優秀ナルヲ確メタリ。

淡水魚族人工孵化放流試驗

本試驗ハ比年漁獲減少セル本縣ニ於ケル河川重要魚族タル鮎及鱒ノ蕃殖ヲ挽回保護シ、其生産ノ増進ヲ圖ルノ目的ノ下ニ前年度ニ繼承シ、縣下吉井川及旭川流域ニ於テ孵化放流試驗ヲ施行セリ。

本試驗今日迄ノ試驗成績ニ就テハ之ヲ的確ニ知ルコト難キモ、鱒ノ如キハ近來同川ニテ漸次漁獲セラル、ニ至レルヲ認メ其經過良好ナリト認ム。

イ、鮎人工孵化放流試驗

從來本試驗ハ吉井川流域ニ於テノ引續キ施行シ來レルモ、本年度ヨリハ旭川流域ニ於テ施行スルコト、ナレリ。孵化場ノ位置撰定ニ就キ吉井川ニテハ禁漁區内トセルモ、旭川ノ如ク都市及此ニ接近セル個所ニ禁漁區存在セル場合ニハ該區域内ニ孵化場ヲ設置シ採卵ヲナス時ハ取締上ノ困難多カルベキヲ以テ、寧ろ産卵場ハ取締ヲ嚴ニシ天然産卵並ニ孵化率ヲ可及的大ナラシメ禁漁區外ニテ本試驗ヲ施行セバ一層効果ヲ高ムルコトヲ得ベキコトヲ慮リ、十月早々該場ノ位置ノ調査ヲ行ヒ十月四日同川流域タル赤磐郡西高月村牟佐ニ定メ同月八日孵化設備ヲ終了セリ。

爾來同所ノ上下ニアル瀬ヲ五人網漁場ト爲シ同月十日試漁セルニ捕獲魚何レモ未熟ナリキ十二日モ同様ノ結果ナリキ越ヘテ十三日朝大網ヲ使用セルニ捕獲魚初期ニ比セバ一般ニ次第二成熟シ、暫時蕃養後ハ使用ニ堪フベキ雌魚僅カニ二尾ヲ得タルニ過ぎズ、十六日再ビ五人網ヲ使用セルモ漁獲少ナシ前述ノ如ク孵化場設置後數回ニ亘リ親魚ノ捕獲ニ努力セルモ適當ノ親魚ヲ得ズ願ルニ年來吉井川ニテハ十月中旬ヲ以テ産卵盛期トナス。

是ヨリ推測シ此状態ヲ持續セバ採卵不能ニ終ルヤモ知レザルヲ憂ヒ同十八日同川禁漁區内ニテ試漁セルニ放卵射精後ノ親魚多ク、供試用親魚少數ニシテ多數ノ採卵到底不可能ナリト思考シ、吉井川流域上道郡御休村一日市地先禁漁區内ニ

ヲ採卵シ、發眼卵ヲ旭川ニ運搬シ孵化放流ヲナス計畫ヲ樹立セリ。
 同月二十日孵化槽卵盆等ノ一部ヲ置キ殘餘一切ヲ牟佐ヨリ一日市ニ運搬シ即日準備ヲ了セリ。
 親魚ノ配合ハ前年度同様ニシテ即晝間五人網ニテ雌魚ヲ捕獲シ即時採卵ニ供シ得ル成熟親魚ト否トノ二種ニ區別シテ、
 二隻ノ活洲船ニ貯ヘ前者ヲ漁場タル禁漁區ノ瀬付場ニ運搬シ、空掛釣ニテ捕獲セラル、雄魚ヲ直チニ配合スルモノナリ。
 親魚ノ漁獲ハ十月二十一日ヨリ十一月四日迄施行セルガ最初十月二十一日ハ雄魚少ク採卵スルニ至ラズ、同月二十
 三日ヨリ好良ナル雄魚ヲ得タルヲ以テ採卵ヲ開始シ五十六萬粒ヲ得タリ。爾來之ガ採卵ニ努メタルガ既ニ産卵盛期ヲ過
 半經過セルヲ以テ採卵不如意ナリシモ同月二十五日迄ニハ百二十三萬ヲ採卵スルヲ得タリ。爾後採卵數少ク且ツ産卵
 終期接近シ豫定卵數ヲ採卵スルニ至ラザリシモ、採卵不能トナレルヲ以テ十一月四日日本作業ヲ終了セリ。此間ノ使用親
 魚尾數ハ雌五十三尾、雄百五十九尾ナルコト詳細左表ノ如シ、受精方法ハ前年度同様里芋ノ葉ヲ使用シ好成绩ヲ收ムル
 ヲ得タリ。

採卵月日	採卵數	採卵用親魚數		採卵用雌魚ノ大サ		採卵用雄魚ノ大サ		
		雌	雄	計	體長	體重	體長	體重
十月二十三日	五〇〇,〇〇〇	一三	三五	四八	六、三	一三、二	六、一	一四、三
全	二四五,〇〇〇	四	一六	二〇	七、〇	一八、三	六、〇	一三、七
全	五五,〇〇〇	二	三九	五〇	六、五	一四、四	六、五	一九、二
全	二八〇,〇〇〇	四	二二	一六	七、四	二〇、二	五、八	一〇、二
全	三八五,〇〇〇	五	二七	三三	六、二	一一、九	六、五	一八、九
全	二八〇,〇〇〇	三	二二	三三	六、三	一三、〇	六、六	一六、九
全	二八〇,〇〇〇	三	二二	三三	六、一	一一、七	六、一	一六、九
十一月四日	一〇五,〇〇〇	三	九	二二	六、一	一一、七	六、一	一六、九
十一月四日	一〇五,〇〇〇	三	九	二二	六、一	一一、七	六、一	一六、九
合計	二,八〇〇,〇〇〇	五	一九	二二	六、五	一四、八	六、二	一五、一

備考 親魚ノ休長体重ハ採卵ニ供セシモノ、全尾數ノ平均ニ依ル

前述ノ方法ニテ受精ヲ行ヒ棕櫚皮ニ附着セシメタル受精卵ヲ孵化盆ニ静置シ二三日ニ一回孵化盆ヲ取出シ一枚宛丁寧ニ
 汚物(主トシテ俗ニ言フ水垢)ヲ洗滌除去セリ。本試驗中ハ著シキ出水ヲ見ザリシ爲メ孵化成績比較的順調ナルヲ得タリ。
 本年ハ本作業時期遅延セルモ一般ニ良好ニシテ平均發眼日數八日間、孵化日數十五日間孵化率平均九割ノ成績ヲ收メ十
 一月十七日孵化仔魚二百十五萬尾ノ放流ヲ終ヘ茲ニ本試驗ヲ終了セリ即チ詳細次表ノ如シ

採卵月日	日發眼數	日孵化數	採卵數	孵化數	孵化率	摘	要
全	八	一六	二四五,〇〇〇	二二,〇〇〇	八五		
全	八	一七	五五,〇〇〇	四九六,〇〇〇	九〇		
全	八	一六	二八〇,〇〇〇	二四五,〇〇〇	八八		
全	八	一四	三八五,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	九一		
全	八	一五	二八〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	九〇		
十一月四日	八	一四	一〇五,〇〇〇	九五,〇〇〇	九〇		
平均	七	一五	二,三八〇,〇〇〇	二,一五〇,〇〇〇	九〇		

備考 發眼孵化日數ハ其盛期ヲ基準トシ採卵月日迄ヲ算出セリ。

之ヲ要スルニ本年度本試驗ハ施設河川ノ變更ヲ計劃シ最良期ヲ逸セル爲メ採卵孵化數僅少ニ過ギザリシハ遺憾ナリシモ
 採卵着手後ハ一回ノ大出水モ無ク孵化良好ナリシハ喜ブベシ
 本試驗期間中ノ觀測日誌ヲ示セバ次ノ如シ

月日	天候	氣		水		摘要
		午前六時	正午	午前六時	正午	
十月十二日	曇	一六、〇	二四、〇	一七、〇	一八、〇	牟佐ニ於ケル観測ナリ 十三日大網使用ス、暫時蓄養後採卵用観 魚トシ得ル雌魚ニ尾捕獲生殖器成熟 ス。
十月十三日	晴	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月十四日	晴雨晴	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月十五日	晴	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月十六日	晴	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月十七日	晴	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月十八日	晴	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月十九日	晴	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月二十日	曇後雨	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月二十一日	雨	一七、〇	二六、〇	一八、五	一九、〇	
十月二十二日	晴	一六、三	一九、三	一七、〇	一七、五	四寸出水ス
十月二十三日	晴	一三、四	一九、〇	一六、五	一七、五	第一回分採卵ス
十月二十四日	晴	一三、四	一九、〇	一六、五	一七、五	第二回分採卵ス
十月二十五日	晴	一三、四	一九、〇	一六、五	一七、五	第三回分採卵ス
十月二十六日	晴	一三、四	一九、〇	一六、五	一七、五	第四回分採卵ス
十月二十七日	曇後晴	九、五	一九、五	一六、五	一七、五	雄魚少ク採卵不能
十月二十八日	曇	一三、〇	二二、〇	一七、五	一八、〇	第一回分採卵ヲ始ム
十月二十九日	晴	一五、四	二二、〇	一七、〇	一七、〇	第二回分採卵ヲ始ム
十月三十日	晴	一三、〇	二二、〇	一六、〇	一七、〇	第三回分採卵ヲ始ム
十月三十一日	晴	一〇、五	二二、〇	一五、五	一七、〇	第四回分採卵ヲ始ム
十一月一日	雨後曇	一三、〇	一七、五	一五、五	一七、〇	第四回分採卵ヲ始ム

二月二日	晴	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第二、三、四回分ヲ牟佐ニ運搬ス
二月三日	晴	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第一回分採卵ヲ始ム
二月四日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第二回分採卵ヲ始ム
二月五日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第三回分採卵ヲ始ム
二月六日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第四回分採卵ヲ始ム
二月七日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第五回分採卵ヲ始ム
二月八日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第六回分採卵ヲ始ム
二月九日	雨	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第七回分採卵ヲ始ム
二月十日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	以下、牟佐ニ於ケル観測ナリ
二月十一日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第一回分採卵ヲ始ム
二月十二日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第二回分採卵ヲ始ム
二月十三日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第三回分採卵ヲ始ム
二月十四日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第四回分採卵ヲ始ム
二月十五日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第五回分採卵ヲ始ム
二月十六日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第六回分採卵ヲ始ム
二月十七日	曇	一一、〇	二二、〇	一五、五	一七、〇	第七回分採卵ヲ始ム

〇、鱒族人工孵化放流試験

本試験ハ前年度ニ繼承シ孵化場ヲ吉田郡上加茂村大字知和内田龍平所有ノ舟山川ニ沿ヘル屋舎内ニ設置シ、あつとさん
す氏孵卵器使用セリ。

魚卵ハ滋賀縣琵琶湖、秋田縣十和田湖及群馬縣九沼等ノ孵化場ヨリ購入ノ豫定ナリシモ、十和田湖ハ不漁ノ爲メ九沼ハ事務ノ都合上中止セル爲メ購入スル能ハズ、琵琶湖々岸ナル滋賀縣水産試驗場知内孵化場並ニ滋賀縣阪田郡醒井村宗谷藤野養魚場ヨリ各四萬粒宛購入シ之ガ孵化ニ着手セリ。

供試魚卵中前者ハ大正九年十月三十日採卵ヲナシ十一月二十日發眼セルモノニシテ、同年十一月二十三日午前九時醒ケ井驛發荷翌二十四日午前十時本場ヘ到着直チニ解荷ノ上冷却用水ノ詰換ヲナシ、午後零時二十分岡山驛發列車ニテ孵化場ヘ運搬シ同六時同所ヘ到着セリ當時日没後ナリシヲ以テ運搬槽ノ儘河水ニ浸置セリ。翌二十五日早朝孵化槽ニ收容セリ到着當時ノ運搬箱内溫度一、五度、氣温一三度、用水温一二度ナリキ。

氣温比較的高温ナル爲メ運搬中冷却用水大半融解セリ。氣温高キ爲メカ或ハ荷造ノ良好ナラザリシ爲メカ何レニ起因セルカ、死卵著シク多大ニシテ檢卵ノ結果五千七十六個ヲ數ヘ運搬歩減一割二分七厘ニ達セリ。

後者ハ大正九年十一月十二日採卵シ十一月三十日發眼セルモノニシテ、同年十二月十日午後六時滋賀縣長濱驛ヲ發荷シ米原驛ニテ積換ニ時ヲ要セシ爲メカ甚シキ遲延ヲ來シ、十三日午後一時漸ク岡山驛ニ着荷セリ過分時日ヲ經過セルタメ檢卵ノ要アルヲ以テ本場迄持運ビ解荷セルニ意外ニ好良ニシテ、比較的僅少ニ留マレルヲ認メタルヲ以テ二個ノ運搬箱ニ一貫匁宛ノ冷却用水ヲ入レ、内一枠(二千粒)ヲ香川縣水産試驗場ヨリノ依頼ニ依リ分與ノ豫定ニテ本場ニ置キ、殘餘三萬八千粒ヲ荷造ナシ同日午後六時四十分岡山驛發荷翌十四日津山ヨリ荷車ニテ運搬セシメタレド、道路惡シク午後三時半ニ至リ漸ク孵化場ニ到着セリ。

運搬容器ハ杉材四分板製縱一尺七寸五分、横一尺五分、深サ一尺ノ外箱中ニ正四分角ノ木片ニテ縱一尺五寸、横七寸五分ノ枠ヲ作り中央ヲ同ジ木片ニテ區切り之ニ晒木綿ヲ貼付シ、布片上ニ鱈卵約二千粒ヲ並列シ更ニ此上ヲ同布片ノ兩端ニテ掩ヒタルモノ十枠ヲ重畳シ、各枠間並ニ外箱間ヲ水苔ニテ充填シ最上部ニ水ヲ澆ケリ。

孵化場到着後直チニ解荷セルニ當時氣温四度一分、運搬容器内溫度三度九分、用水温五度一分ヲ示セリ。死卵總數千六百粒ニシテ運搬中ノ歩減僅ニ四分四厘ニシテ時日ヲ要セルニ拘ハラズ比較的好良ナルヲ得タリ。左ニ運搬容器中ノ位置ニ依ル死卵多少ノ變化ヲ示サシガ爲メ各枠ニ依ル死卵數ヲ表示セリ二箱各別トセリ。

第一枠	第二枠	第三枠	第四枠	第五枠	第六枠	第七枠	第八枠	第九枠	第十枠	合	計
一五	七〇	其	五五	八〇	七〇	七〇	八六	一一〇	〇		七八
八	七五	六三	一〇四	七	七	七	七五	九七	二五		八六一

備考 枠順ハ上ヨリ下ニ至ルモノニシテ數字ハ死卵粒數ナリ

孵化場到着後ノ鱈卵ハ直チニ孵化槽ニ收容セシガ爾後ノ經過後者ハ稍良好ナルヲ得タルモ前者ハ不良ニ終レリ。即前者ハ孵化開始迄ニ死卵總數千三百九十九粒ヲ算セリ爾後漸次孵化シ十二月十七日頃孵化最盛ニシテ一月十三日孵化終了ス。是迄ノ死卵總數二萬二千二百五十二粒ニ達シ孵化率僅ニ三割二分ニ過ギズ、而シテ二月二十二日解出ヲ開始シ三月十六日解出終了セリ此間ノ死魚數六千五百三十六尾ノ多數ニ及ベリ。

後者ハ十二月二十四日孵化ヲ始ムル迄ニ死卵千粒ニシテ、一月二十六日頃孵化最盛ニシテ二月二十六日孵化終了ス。是迄ノ死卵總數九千三百粒孵化率七割三分ノ成績ヲ擧ゲ而シテ三月六日解出ヲ開始シ四月五日解出終了セリ此間ノ死魚二千七百八十尾ナリ。

大正十年三月十九日ヨリ煮熟卵黃ヲ給餌シ同月三十一日ヨリ給餌セルモ、本年度ハ從來ノ餌料ヲ得ルコト困難ニシテ餌料ノ供給不充分ナル爲メ孵化槽内ニテ斃死セシムルヲ悞レ、且比較的餌付良好ニシテ孵化槽ノ狹隘ヲ感ゼルヲ以テ兩者共同時ニ大正十年四月十九日放流ヲ行ヘリ。

牡蠣養殖試験

本試験ハ住ノ江牡蠣養殖試験ト眞牡蠣養殖試験トノ二項ニ分チ主トシテ兒島灣内笹ヶ瀬川日本場養殖試験地並ニ和氣郡伊里村伊里川口ニ於テ前年度ニ繼承施行セリ。

1. 住ノ江牡蠣養殖試験

本試験ハ縣下ニ於テ該種ノ蕃殖普及ヲ圖リ同時ニ採苗飼育ノ方法ヲ攻究セントスルニアリ。本種ノ採苗ハ從來ノ經過ニ看ルニ兒島灣内本場養殖試験地ニテハ良好ノ成績ヲ果グルコト困難ナル觀アルヲ以テ、和氣

Table with columns for dates (全二十五日 to 全二十六日), weather (雨, 曇, 晴), wind direction (南, 北, 西), and mortality statistics (前年死魚数, 本年死魚数, 後者死魚数). Includes text: 全部加茂川及舟田川ニ放流セリ

Table with columns for dates (全七日到全二十八日), weather (雪, 晴, 曇, 微雪), wind direction (西, 北, 西北), and mortality statistics (前年死魚数, 本年死魚数, 後者死魚数). Includes text: 煮然卵黄ヲ給餌ス

郡伊里村伊里川口ニテ本試験ヲ施行スルコト、シ、先ヅ六月十四日兒島灣内ヨリ親貝一斗ニ付十個乃至十三個入りノモノ二十一石一斗二千四百四十五個ヲ人夫二人ニ採集セシメ運搬船ニ積込メルモ強風ニテ出航遅延シ、十六日出航十七日午前十時該地到着直ニ撒付タルモ余リ時日ヲ要シタルト氣温高カリシ爲メ、運搬中ノ死貝多ク生貝僅カニ三割強ニ過ギザリキ。稚貝附着材料ハ瓦ヲ使用スルコト、ナシ稚貝ノ剝離ヲ容易ナラシムル爲メ之ニ塗扶材料トシテ、石灰二細砂一ヲ海水ニテ混和セル所謂石灰乳劑ノ塗抹作業ヲ同月二十三日迄ニ終了セリ。

採苗器ハ本試験地ノ如キ比較的浮泥ノ多キ箇所ニ於テハ瓦ヲ立テ一枚毎ニ中棚ヲ作レバ同高内ノ瓦ノ數ハ減ズルモ、海水ノ流通良好ナルヲ得好結果ヲ收ムベシ。故ニ該方法ヲ採用スルコト、ナシ六月二十五日採苗器ノ建込ヲ了セリ。其後ノ着生狀況ハ調査スル處ニ依レバ平均一枚ニ付十個内外ナリキ。

ロ、眞牡蠣養殖試験

本試験ハ本縣産牡蠣ノ品位形態ノ改善ヲ圖ラントスルニアリテ前年度ニ繼承シ、兒島灣内本場養殖試験地及淺口郡玉島町乙島ニ於テ試験ヲ續行セリ。

採苗試験

採苗法ハ前年度同様瓦漬法ニ依リ附着器ハ前年ノモノヲ其儘使用セリ、石灰乳劑ハ前記住ノ江牡蠣ノ場合ト同様ノ割合ニ石灰及細砂ヲ混ジタルモノヲ用ヒ六月六日塗抹作業ヲ了シ、六月三十日採苗装置ヲ了セリ。其後ノ經過ニ付キ稚貝ノ附着狀況ヲ看ルニ瓦一枚ニ付最多ハ二十個ニシテ、最少ハ一二個ナルモノアリテ平均七八個ニ過ギザリシモ生長ハ概シテ良好ナルガ如シ。

實入試験

實入試験地トシテ兒島郡福田村呼松ハ生長ハ良好ナルモ風波ノ被害比較的多キヲ以テ四月十日及五月十四日兩度ニ亘リ淺口郡玉島町乙島地先ニ就キ調査ヲナシ、玉島灣口ニ地ヲトシ五月十五、十六兩日前年施設ノ採苗器二臺ニ附着セル稚貝ノ剝離作業ヲ了シ同月十八日前記ノ新ニ撰定セル實入場ニ稚貝約二斗ノ撒付ヲ行ヘリ。剝離當時ノ稚貝ノ大サハ平均一寸二三分ナリキ。其後ノ經過ニ關シテハ年度内ニ調査ヲナスニ至ラザリシヲ以テ次年度早々精査ノ上發表セントス。

淺海利用調査

本調査ハ前々年度ヨリノ繼續事業ニシテ縣下沿岸ニ亘リ魚介藻類ノ蕃殖保護ヲ圖リ漁利ヲ永遠ニ維持シ、漁村振興ノ實ヲ舉グルノ目的ノ下ニ既定ノ調査項目ニ依リ本年度ハ新造試験船ニ依リ、邑久郡牛窓町地先及和氣郡片上灣ノ一部ニ就キ一般の調査ヲ行ヒタリ猶逐年順次他郡沿海ニ及ボサント欲ス。而シテ一面海産蕃殖方法並ニ藻貝採苗方法ニ對シ實地ニ就キ具體的調査ヲ行ヒタリ以下其結果ヲ記述スベシ。

イ、一般的調査

前記ノ如ク和氣邑久兩郡ノ一部ニ就キ調査シタルモノニシテ、其結果ハ前年同様調査箇所各点ニ就キ表示スルコト、ナシ、調査地域中生物分布ノ顯著ナルモノ及底質ニ就キ特ニ調査ヲ施行セルモノハ之ヲ表末ニ附記スルコト、セリ。

月日時	觀測點位置	觀測點番號	水深	上層 水温	下層 水温	湖流 方向	底質	生物 分布	浮游 生物	透明度	參考 事項
大正十年 三月十一日 午前十時十五分	糞ヒリ、蓬崎 見透線	A	二六、〇	九、〇	九、〇	東	東 泥砂質	採集	〇、〇	二五、〇	氣温二、六度強風 風向東雲量一〇
全 十時二十分	全 右	B	二五、五	八、九	九、〇	北東	泥砂質	全	〇、〇	二〇、〇	雲量一〇
全 十時二十五分	全 右	C	一七、五	八、八	八、九		泥質	全	〇、〇	七、五	
三月九日 午前九時三十分	辨天島、前島 ノ黒岩見透線	D	二六、〇	八、七	八、八			全	〇、〇	二〇、〇	無風晴
全 九時五十分	全 右	E	一六、〇	八、八	八、五		泥砂質	全	〇、〇	七、五	全右
全 十時十五分	全 右	F	一〇、〇	八、七	九、一		泥質	全	〇、〇	六、〇	全右
全 十時三十分	全 右	G	一一、〇	八、八	八、八		泥質	全	〇、〇	七、五	全右
全 十時四十五分	明神山ト前島西 端ノ高峰見透線	H	七、五	八、九	八、七		泥質	全	〇、〇	七、五	全右
全 十時五十分	全 右	I	四五、〇	八、八	八、五		泥砂質	全	〇、〇	二四、五	全右
全 十一時〇五分	全 右	J	八五、〇	八、五	八、六		砂泥質	全	〇、〇	二〇、〇	全右
全 十一時十分	全 右	K	七五、八	八、八	八、九		泥質	全	〇、〇	七、五	全右
三月十日 午前九時卅五分	大鼻、城ヶ鼻 見透線	L	二〇、〇	八、八	九、〇		泥質	全	〇、〇	二五、〇	氣温二、七度 晴、南風、風向南西

大正十年三月十一日... 觀測點番號... 水深... 水温... 湖流... 底質... 生物分布... 浮游生物... 透明度... 參考事項...
 觀測點番號：A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L
 水深：二六、〇, 二五、五, 一七、五, 二六、〇, 一六、〇, 一〇、〇, 一一、〇, 七、五, 四五、〇, 八五、〇, 七五、八, 二〇、〇
 上層水温：九、〇, 八、九, 八、八, 八、七, 八、八, 八、七, 八、八, 八、九, 八、五, 八、八, 八、八, 八、九
 下層水温：九、〇, 九、〇, 八、九, 八、八, 八、五, 八、八, 八、七, 八、七, 八、五, 八、六, 八、九, 九、〇
 湖流方向：東, 北東
 底質：東泥砂質, 泥砂質, 泥質, 泥砂質, 泥質, 泥質, 泥質, 泥質, 泥砂質, 砂泥質, 泥質
 生物分布：採集, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全
 浮游生物：〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇, 〇、〇
 透明度：二五、〇, 二〇、〇, 七、五, 二〇、〇, 二四、五, 二〇、〇, 七、五, 七、五, 七、五, 七、五, 七、五, 七、五
 參考事項：氣温二、六度強風風向東雲量一〇, 雲量一〇, 無風晴, 全右, 全右, 全右, 全右, 全右, 全右, 全右, 全右, 全右, 全右, 全右, 氣温二、七度晴、南風、風向南西

月日時	觀測点位置	點番	水深	上層	下層	潮流	底質	生物	浮游生物	透明度	參考事項
全十一月廿五日	全 右	Y	三、五、八、八	一、〇、三、五、七	一、〇、三、六、〇	泥質				二、五、〇	氣溫一、一、五度
全十一月三十日	全 右	Z	三、五、九、〇	一、〇、三、六、二	一、〇、三、六、六	泥質				三、五、〇	氣溫七、二度
三月十六日	呼子ノ鼻、穴	1	二、五、〇、八、五	一、〇、三、〇、八	一、〇、三、三、一	東泥質				三、五、〇	氣溫七、二度
午後四時卅五分	ク鼻見透線	2	二、五、〇、八、五	一、〇、三、〇、八	一、〇、三、三、一	東泥質				三、五、〇	風向西軟風時
全四時三十分	全 右	3	三、五、〇、八、六	一、〇、三、三、三	一、〇、三、三、四	東泥質				三、五、〇	氣溫六、九度
全四時二十分	全 右	4	二、七、五、六、三	一、〇、一、九、一	一、〇、三、九、一	西泥質				二、〇、〇	晴風向西
午前十一時	高座鼻ト布濱西端トノ見透線	4	二、七、五、六、三	一、〇、一、九、一	一、〇、三、九、一	西泥質				二、〇、〇	氣溫七、七度
全十時二十分	全 右	5	二、〇、〇、七、三	一、〇、二、八、四	一、〇、三、七、一	泥質				二、〇、〇	晴
全十時二十五分	全 右	6	七、五、七、二	一、〇、一、〇、八	一、〇、三、〇、一	泥質				二、〇、〇	晴
午後四時十分	全 右	7	八、〇、八、四	一、〇、三、三、七	一、〇、三、八、二	東泥質				二、〇、〇	晴風向南西
全四時五十分	全 右	8	一、〇、〇、八、四	一、〇、三、五、五	一、〇、三、八、一	東泥質				二、〇、〇	晴
全四時	全 右	9	一、一、〇、八、三	一、〇、三、六、八	一、〇、三、〇、一	東泥質				二、〇、〇	晴
午前十時三十分	高座鼻ト龜島東端見透線	10	三、五、七、一	一、〇、三、三、一	一、〇、三、六、六	泥質				二、〇、〇	晴
全十時四十分	全 右	11	三、五、七、三	一、〇、三、五、三	一、〇、三、五、一	泥質				二、〇、〇	晴風向南西
全十時四十五分	全 右	12	一、七、五、七、三	一、〇、二、六、二	一、〇、三、五、〇	泥質				二、〇、〇	晴軟風 風向南西

月日時	觀測点位置	點番	水深	上層	下層	潮流	底質	生物	浮游生物	透明度	參考事項
全十一月十一日	全 右	X	一、八、〇、八、八	一、〇、三、四、六	一、〇、三、五、七	泥質				三、〇、〇	風向南西
全十一月十五日	蕨崎ト網代崎トノ見透線	W	二、〇、〇、八、九	一、〇、三、五、五	一、〇、三、六、三	泥質				三、〇、〇	
全十一月十五日	全 右	V	二、五、〇、九、〇	一、〇、三、五、六	一、〇、三、六、三	泥質				二、五、〇	
全十一月十五日	全 右	U	二、〇、〇、八、八	一、〇、三、五、八	一、〇、三、六、八	泥質				二、六、〇	風向南
全十一月十五日	全 右	T	二、〇、〇、八、七	一、〇、三、五、八	一、〇、三、五、七	泥質				二、五、〇	風向南西
全十一月十五日	全 右	S	二、二、五、九、〇	一、〇、三、五、七	一、〇、三、五、七	砂質				二、二、五	氣溫一〇、七度
全十一月十五日	源十下、岩下見透線	S	二、二、五、九、〇	一、〇、三、五、七	一、〇、三、五、七	砂質				二、二、五	
全十一月十五日	全 右	R	一、五、〇、九、〇	一、〇、三、五、七	一、〇、三、五、七	泥質				四、〇、〇	氣溫一〇、七度
全十一月十五日	全 右	Q	一、八、〇、八、八	一、〇、三、五、七	一、〇、三、五、七	泥質				六、〇、〇	
全十一月十五日	全 右	P	一、六、〇、八、八	一、〇、三、五、〇	一、〇、三、五、七	泥質				二、五、〇	
全十一月十五日	透線	O	一、〇、〇、八、九	一、〇、三、五、九	一、〇、三、五、九	泥質				二、〇、〇	氣溫一三、二度
全十一月十五日	狐岩、赤末見透線	O	一、〇、〇、八、九	一、〇、三、五、九	一、〇、三、五、九	泥質				二、〇、〇	氣溫一三、二度
全十一月十五日	全 右	N	二、五、〇、八、七	一、〇、三、六、七	一、〇、三、七、七	岩				二、六、〇	晴南風
全十一月十五日	全 右	M	二、〇、〇、八、七	一、〇、三、六、七	一、〇、三、六、七	岩				二、六、〇	氣溫一三、二度 雲量〇快晴

月日時	観測点位置	観測点番号	水深	水温上層	比重上層	水温下層	比重下層	潮流方向	底質	生物分布	浮游生物透明度	参考事項
三月十六日 午前十時五十分	梶島ト牛崎トノ見透線 右 右	13	二〇、〇	七、七	一、〇、三三	七、九	一、〇、三五八	泥質	泥質		二〇、〇	晴
全十一時		14	一三、〇	七、五	一、〇、三五二	七、五	一、〇、三六四	泥質	泥質		二、五	晴
全十一時十分		15	二〇、〇	七、七	一、〇、三三九	八、〇	一、〇、三五六	泥質	泥質		二、〇	晴風向西
全十一時二十分		16	一〇、〇	七、六	一、〇、三三四	七、八	一、〇、三四三	泥質	泥質		一〇、〇	風向南西
全十一時廿五分		17	一〇、〇	七、八	一、〇、三二五	七、五	一、〇、三四三	泥質	泥質		一〇、〇	
全十一時三十分		18	一一、〇	七、九	一、〇、三三〇	七、六	一、〇、三五五	泥質	泥質		二、〇	風向南西
正午		19	七、五	七、五	一、〇、三三一	七、五	一、〇、三二五	泥質	泥質		七、五	晴 氣温四、二度
全十一時四十五分		20	二、五	七、五	一、〇、三二六	八、〇	一、〇、三三七	泥質	泥質		七、五	晴 氣温四、二度
全十一時五十分		21	一五、〇	七、九	一、〇、三三八	七、七	一、〇、三五二	泥質	泥質		二、〇	晴 風向南西
全十一時四十分		22	二〇、〇	八、〇	一、〇、三二六	七、六	一、〇、三五六	泥質	泥質		二、〇	晴
午後〇時五分		23	七、五	七、九	一、〇、三二七	七、七	一、〇、三三八	泥質	泥質		三、五	晴
全〇時十分		24	八、〇	八、一	一、〇、三三〇	八、一	一、〇、三三五	泥質	泥質		七、五	晴

底質調査

前掲表中ニ各点ノ底質ヲ示セルモ大畧ナルヲ以テ精査ノ結果ヲ示シ調査資料ノ一端トナスベシ

採集点番号	供試品総量	砂分					泥	摘要	
I	H	G	F	E	D	C	B	A	
二〇、五	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇		一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	
四、〇									
五、八									
二、一									
二、三									
二、三									
五、七									
四、一									
									右側ハ量ヲ示シ 左側ハ百分率ヲ示ス
									材料ヲ欠ク

4	3	2	1	Z	Y	X	W	V	U	T
300,0	300,0	300,0	300,0	330,0	300,0	300,0	300,0	300,0	300,0	300,0
				153,5 15,2						
				399,0 39,2						
				263,5 28,3						
				287,0 8,7						
				413,0 4,3						
00	00	00	00	237,0 95,7	00	00	00	00	00	00
100,0 00,0	100,0 00,0	100,0 00,0	100,0 00,0	100,0 00,0 41,3	100,0 00,0	100,0 00,0	100,0 00,0	100,0 00,0	100,0 00,0	100,0 00,0
貝殻少量混入ス	多量ノ介殻混入ス		貝殻多少混入ス							

S	R	Q	P	O	N	M	L	K	J	採集点 番號
15,5	48,0	30,0	30,0	30,0			30,0	30,0	33,0	供試品總量
32,0 3,0	31,5 3,1									礫
36,7 3,8	26,0 2,5									大砂
35,5 3,5	23,0 4,8									中砂
9,6 1,5	22,0 2,5									小砂
32,5 3,2	4,0 8,4								22,0 16,7	細砂
100,0 0,5	94,8 4,5	00	00	00			00	00	22,0 16,7	砂全量
00	2,5 5,2	100,0 0,0	100,0 0,0	100,0 0,0			100,0 0,0	100,0 0,0	100,0 0,0 83,3	泥
	貝殻少シ混入ス	貝殻少シ混入ス			材料ヲ欠ク	材料ヲ欠ク				摘要

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
一八、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
二二、九	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇
二七、八	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇
三三、三	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇
七五、〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二五、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇
			貝殻小片多量混入ス	多量ノ貝殻混入ス			貝殻少量混入ス	貝殻少量アリ		

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	採集点 番 號
三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	供試品 總 量
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	礫
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	砂
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	大砂
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	中砂
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	小砂
↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	細砂
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	分
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	砂全量
一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	泥
貝殻少量混入ス	貝殻少量混入ス	多少貝殻混入ス	貝殻混入ス	貝殻少量混入ス				貝殻少量混入ス	貝殻混入ス	摘 要

採取点 番號	供試品總量	砂						泥	摘要
		礫	大砂	中砂	小砂	細砂	砂全量		
26	100.0	11	11	11	11	11	0	100.0	

生物分布調査

片上灣内ニ棲息セル貝類トシテハ潮藻貝灰貝牡蠣シラカビ、ふじつば、あかにし、つぶねニシテ分布セル海藻トシテハ
 しらも、おごり、いぎす、あじも等ニシテ干満ノ差平均四尺水害ノ恐れハ一般ニハナキモ穂浪附近ハ伊里川ノ出水ニ
 依リ牡蠣時ニ浮泥ノ爲メ斃死スルコトアリ

赤潮ノ被害ハ古ク明治四十年ニ受ケタルコトアルノミ同四十二年赤潮ノ襲來ヲ見タルモ被害ヲ受クルニ至ラザリキ爾來
 此事ナシ本灣内ハ本被害ヲ考慮スルノ要ナシト認メラル

養殖適地トシテハ沿岸ノ淺海部ハ何處モ牡蠣養殖適地ニシテ浦伊部ノ堤防附近ニハ稚貝ノ附着殊ニ多シ然レ共片上及浦
 伊部地先ハ海底次第ニ埋没シ爲メニ地盤高キニ失シ適地區域縮少ノ感アリ鶴海地先ニ養貝養殖適地多少存在ス

しらもハ沿岸ヨリ十三四間ニシテ干潮線ヨリ一尋程ノ地点ニアリ片上灣ノ兩岸ニ繁茂スレ共伊部ニハ分布ヲ見ズ茶臼山
 下ニハあをさノ分布ヲ見ル

ロ、藻貝採苗調査

本調査ハ前年度ヨリノ繼續事業ニシテ種苗ノ供給不如意ノ爲メ縣下ニ於ケル藻貝養殖業ヲ阻害セルコト大ナルヲ以テ是
 レカ缺点ヲ補足セント欲シ研究ヲ續行セリ前年度ノ調査ノ結果ニ鑑ミ八濱町地先ヲ廢シ本年度ハ兒島郡本莊村地先並ニ

邑久郡玉津村尻海ノ外ニ新タニ比較的少量ニ天然ノ發生スル淺口郡寄島町安倉地先ニケ所ヲ撰定セリ

施設場所

- 一、兒島郡本莊村 前年度ト同様ノ地点ナリトス
- 二、邑久郡玉津村 前年度ト同様大島ノ西側ノ地域
- 三、淺口郡寄島町安倉 本地先調査地域ハ軟泥質ニシテ本地先一帶ハ數年以前ニ藻貝ノ大發生ヲ見タル地ニシテ年々多
 少ノ發生ヲナスモ他所ニ多ク搬出スルニ至ラズ該地先中比較的藻濃厚ニシテ該貝ノ發生比較的多キ個所及ビ之ニ反シ
 藻ノ稀薄ニシテ該貝ノ發生僅少ナル個所ノ二ケ所ヲ撰定セリ一ケ所約二十八坪ナリ

附着材料

附着材料トシテ棕櫚皮、粗朶木等ヲ使用シ次ノ如キ様式ニ作成セリ

1. 粗朶木ニ棕櫚皮ヲ卷キ付ケ上下二ケ所ヲ結束ス
2. 葉女竹ヲ長サ三尺乃至四尺ニ切り二三本ヲ一束トス
3. 長サ二尺乃至二尺五寸ノ粗朶木ヲ葉及細枝ヲ打チ落シタル後先端ト根ト交互ニ適宜ニ組合セ徑一尺乃至一尺五寸ノ
 束トナシ一ケ所又ハ二ケ所ヲ棕櫚繩ニテ結束ス此物ヲ徑四分程ノ棕櫚網ニテ四尺宛程ノ間隔ヲ以テ結束ス
 施設ニ際シ(1)ハ泥中ニ一尺乃至一尺二三寸埋没セシメタリ(2)ハ長キ爲メ倒ル、恐レアルヲ以テ泥中ニ一尺五寸乃至二尺
 埋没セリ(3)ハ此儘ニテハ移動シ且ツ埋没ノ恐れアルヲ以テ網ノ兩端及此物ノ間々ニ棕櫚皮ヲ卷キ付ケタル粗朶木ヲ結束
 シテ建テタリ

前年度ノ結果ニ依レバ粗朶木及棕櫚皮ニ附着セルヲ以テ主トシテ兩者ヲ使用スルコト、セルモ福岡縣ニテ海苔養殖ニ附
 着セル例アルヲ以テ是ヲモ併テ供試材料トナセリ

一、本莊村地先ニ於テハ女竹五束粗朶木三束棕楮皮五十三枚ヲ使用シ(1)様式及(2)様式ノモノヲ作成シ七月十四日之レガ建込ヲナセリ

二、玉津村尻海地先ニ於テハ(1)様式ノモノ三十二本(3)様式ノモノ十四束ヲ七月十六日建込ヲナセリ當日午後五時三十分調査地域ノ観測ニ依レバ氣温三七・二度水温二九・九度比重一・〇三三五八ヲ示セリ

三、寄島町地先ニ於テ(1)様式ノモノ五十二本(2)様式ノモノ二百五十二束(3)様式ノモノ十二束ヲ七月十八日建込ヲナセリ當日ノ海水状況ノ一端ヲ記サンニ午後六時三十分ノ観測ニ依レバ水温二六・五度比重一・〇三三二〇ヲ示セリ

經過

一、本莊村地先ニ施設セル附着材料ニ就キ是レガ經過ニ關シ大正十年五月十三日檢スルニ施設區域ニケ所共區域内ニテ藻打瀬網ヲ繰業セル爲メ著シク荒サレ施設材料ノ完全ニ殘存セルモノ僅少ニシテ充分ノ調査ヲナスヲ得ザリシモ小部分ノ材料ニ就キ精細ニ調査セルニ粗朶木女竹等ニハ稚貝ノ附着セルヲ見ズ粗朶木ニ棕楮皮ヲ卷キ付ケタルモノニノミ認メラレタリ前年度粗朶木ニ附着セル稚貝ニ就テハ偶然ニアラザルヤノ疑ヲ存セリ然ルニ附着狀態ハ前年同様泥面上

一、二寸ヨリ七八寸ノ間ニ數個認メラレタリ稚貝ノ殼長ハ二分内外ナリ前年度ハ多數ノ附着材料中附着セルモノ僅少ナリシニ本年度ハ材料中三分ノ二ノ附着率ヲ示セリ

二、玉津村尻海地先ノ施設材料ニ就キ是レガ經過ヲ大正十年三月九日調査セルニ(3)様式ノモノハ半分以上泥中ニ埋没シ露出セル部分ハあをさ一面ニ附着シ表面圓滑トナリ稚貝ノ附着ヲ見ズ(1)様式ノモノニハ泥面上三寸ヨリ九寸ノ間ニ殼長一分乃至二分ノ稚貝一本ニ付一個乃至六個附着セルヲ認メ遙ニ後地先ニ劣レリ

三、寄島町地先ノ施設材料ニ付キ大正十年五月二十一日是レガ經過ニ就キニケ所共詳細ニ調査セルニ前記個所同様(1)様式ノモノニ最モ多ク附着シ女竹ニハ兩所共全々稚貝ノ着生ヲ認メズ粗朶木ニハ多少着生セルモ著シカラズ附着成績ハ三ヶ所中最モ良好ナルヲ認メタリ附着狀況ヲ記サンニ附着層ハ泥面上一二寸ノ点ヨリ八九寸ノ間ニシテ即チ七八寸ナリ附着稚貝ノ殼長ハ五厘ヲ最小トシ最大二分五厘ニ達シ平均一分四五厘ナリ該附着材料ニシテ稚貝ノ附着ヲ見ザルハナク一本ニ付キ附着稚貝ノ數最少十四五個最多三十四五個ニ達セリ概シテ泥面ニ近キ部分先端及上下二ヶ所ノ結節部ニ比較的多數ニシテ他ハ稀薄ナル觀アリ

要スルニ前年度及本年度兩年度ノ調査ニ依リ稚貝ノ人工採苗ノ可能ナルハ之ヲ確ムルヲ得タリ且附着材料トシテ精良好ナルモノヲ確知セルモ附着材料トシテ如何ナルモノ最良ナリヤ如何ナル方法ニヨレバ多數ノ稚貝ヲ附着セシメ得ルヤニ就キ次年度ニ於テ是レガ調査ヲ續行セント欲ス

ハ、海産蕃殖調査

調査ノ目的

海産ハ和氣郡沿岸ノ地一帯ニ分布スト雖モ其生産極メテ微々タルモノニシテ僅ニ自家用ニ供スルニ止マレルヲ以テ之レガ蕃殖ヲ圖リ其生産ヲ高メント欲シ前年度ニ繼承シ本調査ヲ續行セリ

調査地

調査地トシテ次ノ二箇所ヲ撰定セリ

一、前年度同様ノ地域即チ和氣郡瀬河村大字寒河字深谷地先波止ヲ距ル東方二十間ノ地点

二、前記地点ト同様深谷地先内ニシテ眞尾鼻ヲ距ル西方十二三町ノ地点

一箇所ノミニテハ既設個所ノ適否ノ決定上不便ナルヲ以テ比較的天然ノ着生多キ箇所前記ニケ所ニ就キ比較調査ヲナサント欲ス

前年度ハ稍施設時期遅延セル疑アリシヲ以テ六月二十四日ヨリ同月三十日迄ニ投石法ヲ施行セリ

施設時期

前年ノ附着状態並ニ施設調査ノ結果ニ依レバ三間ハ稍廣キニ失スル嫌アルヲ以テ巾ヲ二間トナシ長サヲ二十間トナセリ材料ハ稍小形ニシテ且其並列余リ密ナリシヲ以テ之ヲ粗ニナスタメ坪當平均十六個トナシ材料ハ前年度同様該地方ニテ天然ノ該藻附着比較的好良ナル俗稱野面石(石莖粗面岩ナラン)ト同様形質ニシテ重量十貫乃至三十貫位ノモノヲ使用セリ

經過

是レガ經過ヲ大正十年三月十日調査セルニ本年度ノ施設區域ニハ該藻ノ着生ヲ視ルコト稀ナルモ前年度施設區域ニハ幼芽ノ着生稍見ルベキモノアルニ至レリサレド未ダ是レガ採取ノ域ニ達セズ
惟フニ前年ノ不成績ハ施設時期ニモ起因セシナランモ該藻ノ多年生藻類ニシテ且一二年經過後ニ至リテ幼芽充分ニ發育ヲナスモノトセバ説明ヲナスヲ得然ラザレバ原因ノ説明ニ苦シム
尙次年度ニ於テハ之等ノ点ニ留意シ調査ヲ續行セントス

海洋横断観測

本事業ハ農商務省水産講習所並ニ關係各府縣水産試験場トノ連絡事業ニシテ縣下淺口郡青佐鼻ヨリ香川縣三豊郡三崎ニ至ル間ニ於テ毎月一回之ヲ行フ事トナセルモ本年度ハ他ノ事業トノ關係上四月十一月及十年一月二月ノ四回欠測セリ而シテ右観測ノ結果ハ其都度水産講習所ニ報告シ同所ニテハ毎年數回連絡各府縣ノ報告ヲ綜合編纂發表シツ・アリ

本年度實施セシ各月ノ概況左ノ如シ

大正九年五月二十一日観測

水温	表面	最高(E点)一七、三度	最低(F点)一五、三度	平均	一六、一度
	五尋	全(E,F点)一六、三度	全(A点)一五、一度	全	一五、八度
	十尋	全(B,C点)一五、三度	全(A点)一五、〇度	全	一五、二度
	十五尋			全	一四、九度
比重	表面	最重(A点)二四〇九	最輕(F点)二三三〇	平均	二三八四
	五尋	全(A点)二四一六	全(E点)二三六八	全	二三九二
	十尋	全(B点)二四〇九	全(C点)二三九二	全	二三九九
	十五尋			全	二三九七

右結果ヲ綜合スルニ水温ハ大体ニ於テ青佐鼻(F点)側高ク比重ハ三崎(A点)側重シテ昨年同期ト比較スルニ表面水温ハ平均三、二低ク鹹度モ〇、〇〇〇六二低シ

大正九年六月二十四日観測

水温	表面	最高(E点)二一、六度	最低(D点)二〇、六度	平均	二一、一度
	五尋	全(A,E点)二〇、六度	全(D点)一九、九度	全	二〇、三度
	十尋	全(C点)一八、九度	全(A点)一八、三度	全	一八、六度
	十五尋			全	一七、八度
比重	表面	最重(B点)二四六二	最輕(E点)二四三三	平均	二四五〇

即チ上層水溫ハD点ニ於テ最低ク之ヨリ南北ニ至ルニ從ヒ漸次高シ比重ハ高梁川ノ影響ニ依リE、F点稍輕キモ他ハ大差ナシ

大正九年七月二十一日及二十二日觀測

水溫	表面	最高(E点)二五、六度	最低(B点)二四、五度	平均	二五、二度
	五尋	全 (E点)二五、〇度	全 (A点)二二、八度	全	二四、一度
	十尋	全 (C点)二三、四度	全 (B点)二二、四度	全	二二、八度
	十五尋			全	二一、九度
比重	表面	最重(A点)二四、三二	最輕(D点)二三、四四	平均	二三、八六
	五尋	全 (E点)二四、二八	全 (D点)二三、五四	全	二四、〇七
	十尋	全 (B点)二四、一六	全 (A点)二三、六〇	全	二三、八五
	十五尋			全	二四、三〇

最北ノF点ハ高梁川ノ影響ニ依リ多少ノ變化アルモ大体ニ於テ水溫ハ北方ニ至ルニ從ヒ漸次高ク比重ハ中央部ニ輕ク兩側ニ稍重シ而シテ之ヲ前月ト比較スルニ水溫ハ各層共約四度上昇シ比重ハ表面ニテ〇、〇〇〇六四五五ニテ〇、〇〇〇四四十尋ニテ〇、〇〇〇七九十五尋ニテ〇、〇〇〇四五共ニ輕シ

大正九年八月二十六日觀測

水溫	表面	最高(A点)二七、六度	最低(F点)二四、九度	平均	二六、四度
	五尋	全 (A点)二七、〇度	全 (F点)二四、四度	全	二六、〇度
	十尋	全 (A点)二六、八度	全 (C点)二五、四度	全	二六、二度
	十五尋			全	二六、〇度
比重	表面	最重(B点)二四、二五	最輕(F点)二一、八四	平均	二三、四〇
	五尋	全 (A点)二三、九九	全 (F点)二二、五三	全	二三、三四
	十尋	全 (A点)二四、三二	全 (C点)二三、〇七	全	二三、七三
	十五尋			全	二三、二五

水溫ハ前月ト反對ニ各層共南方ニ漸次高ク鹹度ハ高梁川出水ノ爲メE、F点著シク低シ之ヲ前年同期ト比較スルニ水溫ニ於テ表面〇、九度五尋〇、五度十尋〇、三度低ク十五尋ハ同温ヲ示ス

大正九年九月二十日及二十二日觀測

水溫	表面	最高(A、B、D点)二五、九度	最低(F点)二五、五度	平均	二五、八度
	五尋	全 (C点)二五、九度	全 (D点)二五、三度	全	二五、六度
	十尋	全 (C点)二五、九度	全 (A点)二五、四度	全	二五、七度
	十五尋			全	二四、九度
比重	表面	最重(C点)二三、一一	最輕(D点)二二、八〇	平均	二三、九二
	五尋	全 (B点)二三、〇七	全 (D点)二二、八〇	全	二三、九七
	十尋	全 (B点)二三、〇一	全 (C点)二二、七〇	全	二三、八七

右結果ヲ綜合スルニ水温ハ各点ノ差極メテ少ク比重ハB C点附近稍重シ而シテ之ヲ前月ト比較スレバ水温ハ平均表面ニテ〇、六度五尋ニテ〇、四度十尋ニテ〇、五度十五尋ニテ一、一度下降シ鹹度モ表面ニテ〇、〇〇〇四八五尋ニテ〇、〇〇〇三七十尋ニテ〇、〇〇〇八六十五尋ニテ〇、〇〇〇三五ヲ各低下セリ

大正九年十月二十六日観測

本月ハ天候ノ都合上A B C点ノ観測ヲ欠キタルモD E F点ニ就テ見レバ

水温	表面	最高 (E,F点) 一六、三度	最低 (D点) 一六、二度	平均	一六、三度
	五尋	全 (E,F点) 一六、二度	全 (D点) 一六、〇度	全	一六、一度
比重	表面	最重 (F点) 二三七九	最軽 (D点) 二三五四	平均	二三六四
	五尋	全 (F点) 二三八一	全 (D点) 二三四〇	全	二三六一

即チ鹹度ハ南方ニ至ルニ從ヒ漸次低シ

大正九年十二月十八日及十九日観測

水温	表面	最高 (A点) 一四、六度	最低 (F点) 一三、〇度	平均	一三、九度
	五尋	全 (B,C点) 一四、五度	全 (F点) 一三、二度	全	一四、一度
	十尋	全 (A,C点) 一四、五度	全 (B点) 一四、四度	全	一四、五度
	十五尋	全 (B点) 二四〇〇	最軽 (F点) 二二九六	平均	二三四六
比重	表面	最重 (C点) 二三八三	全 (F点) 二二九二	全	二三四二

十尋 全 (B点) 二三九九
十五尋 全 (C点) 二三九一

全 (C点) 二三九一

全

二三九四

十五尋

二三九七

上層水温ハ漸次南方ニ高ク比重ハ大体ニ於テ中央部B C点附近ニ重シ而シテ之ヲ前年十二月三日ノ観測ト比較スルニ水温ハ全般ニ亘リ著シク低ク表面ニテ二、六度五尋ニテ二、二度十尋ニテ一、八度十五尋ニテ一、七度ノ差アリ鹹度ハ表面ニテ〇、〇〇一一五尋ニテ〇、〇〇〇九四十尋ニテ〇、〇〇一六六十五尋ニテ〇、〇〇一六三三高シ

大正十年三月三日観測

水温	表面	最高 (A,B点) 八、九度	最低 (F点) 八、五度	平均	八、七度
	五尋	全 (E点) 九、〇度	全 (D,A点) 八、八度	全	八、九度
	十尋	全 (C点) 九、〇度	全 (A,B点) 八、九度	全	八、九度
	十五尋	全 (B点) 二四三六	最軽 (D点) 二三七八	平均	二四〇七
比重	表面	全 (D点) 二四四六	全 (E点) 二三九〇	全	二四一八
	十尋	全 (C点) 二四三二	全 (A点) 二四二二	全	二四二八
	十五尋	全 (C点) 二四三二	全 (A点) 二四二二	全	二四二二

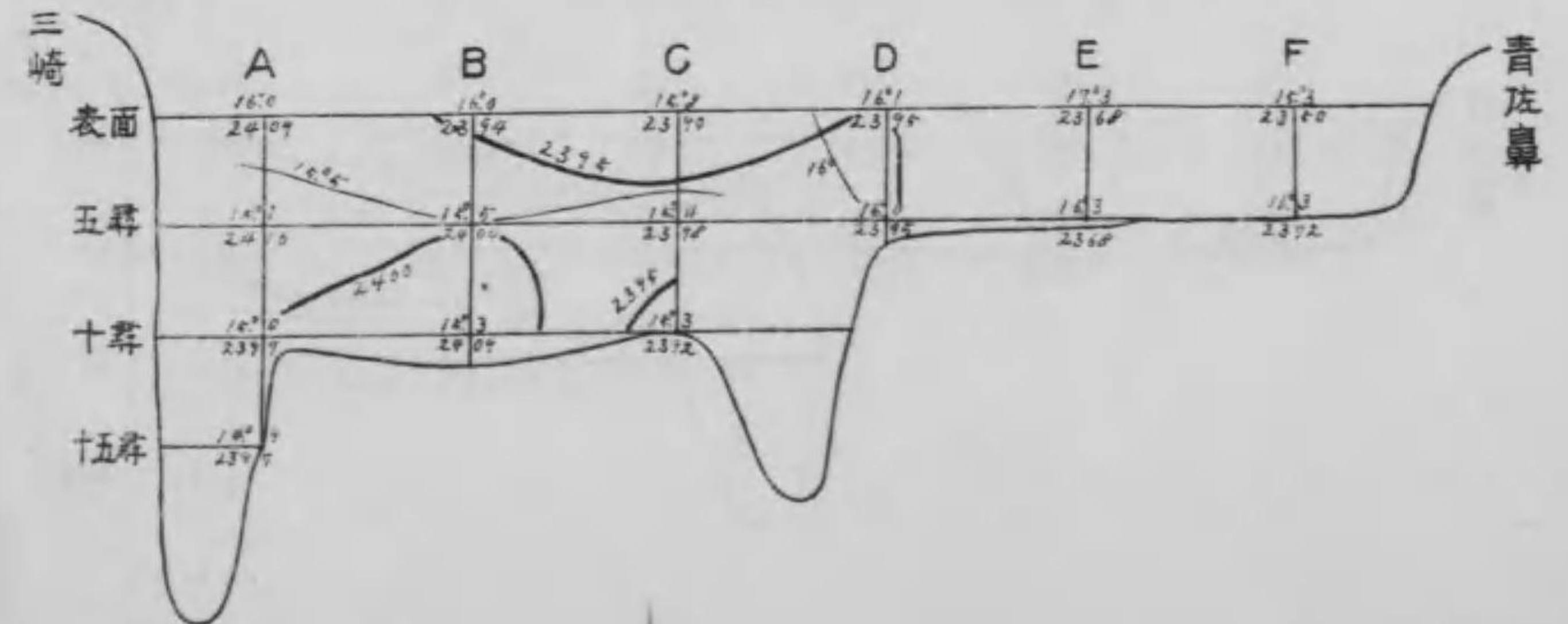
水温ハ大体ニ於テ大差ナク八、五度ヨリ九度ノ間ニアリ之ヲ前年三月十九日ノ観測ト比較スル時ハ表面ニテ約〇、八度低溫ナル共五尋以下ニ於テハ反對ニ約〇、三度高溫ヲ示ス比重ハ上層ニ於テ約〇、〇〇〇六下層ニテ約〇、〇〇〇一重シ尙各月ノ詳細次表ノ如シ

観測點番號		A	B	C	D	E	F	平	
観測時	日 (H時)	21 (3)	21 (3)	21 (3)	21 (3)	21 (3)	21 (3)	均	
	時分	AM 10.40	AM 9.30	AM 8.30	AM 7.30	PM 2.30	PM 3.30		
水温	表面	16.0	16.0	15.8	16.1	17.3	15.3	16.08	
	五等	15.1	15.5	15.4	16.0	16.3	16.3	15.77	
	十等	15.0	15.3	15.3				15.20	
	十五等	14.9						14.90	
比重	表面	示度 (温度)	1.02240 (21.9)	1.02222 (22.0)	1.02241 (21.5)	1.02203 (22.7)	1.02334 (16.5)	1.02316 (16.5)	
		換算比重	1.02409	1.02394	1.02390	1.02395	1.02368	1.02350	1.02384
	五等	示度 (温度)	1.02260 (21.4)	1.02231 (21.9)	1.02231 (21.8)	1.02212 (22.4)	1.02334 (1.5)	1.02334 (16.7)	
		換算比重	1.02416	1.02400	1.2398	1.02395	1.02368	1.02372	1.02392
	十等	示度 (温度)	1.02363 (16.5)	1.02240 (21.9)	1.02250 (20.9)				
		換算比重	1.02397	1.02409	1.02392				1.02399
	十五等	示度 (温度)	1.02363 (16.5)						
		換算比重	1.02397						1.02397
水色		6	5	5	5	5	5	備考	
流向		S	W	WSW	N	SW	W	各點ニ於テ浮游生物採集	
流速									
氣温		19.1	18.8	17.7	15.7	21.3	21.9		
風向		-	-	NNW	-	WSW	WSW		
風力		無風	無風	軟風	無風	軟風	軟風		
雲量		10	10	10	10	3	3		
雲形		SC	SC	SC	SC	C.	C.		
天氣		曇	曇	曇	曇	晴	晴		

下旬 鯧漁 近海鯧ノ來游ハ未ダ是ヲ見ズ漁期未詳ナレ共例年ハ六月三日(百二十日)以後ヨリ漁ヲ始ムル由

鱈漁 北木島附近ノ坪網ニヨリ五六百匁ノ鱈多キ時ハ三十尾乃至五十尾少キ時ハ一二尾ノ漁獲アリ一貫目二圓五十錢乃至三圓

鯛漁 眞鍋島附近ノ鯛漁ハ不漁ニシテ昨今迄ノ漁獲高一統ニ付キ二千圓乃至二千五百圓昨今出魚ヲ認メ始メタリ一貫目六圓



自岡山縣淺口郡青佐鼻 至香川縣三豐郡三崎間
自大正九年五月二十一日午前七時三十分 至全日午後三時三十分

備後灘東部海洋横断観測圖表

青佐鼻ヨリ三崎ニ至ル六點ノ各観測點ノ位置左ノ如シ

A 点 走島南端ト三崎ノ箱崎トノ見透線

B 点 六島ノ南端ト佐柳島ノ高峰トノ見透線

C 点 小飛島ノ北端ト佐柳島ノ南端トノ見透線

D 点 北木島東南ノ鼻ト大島ノ北端トノ見透線

E 点 白石島北端ト手島ノ高峰トノ見透線

F 点 白石島ノ南端ト寄島ノ東端トノ見透線

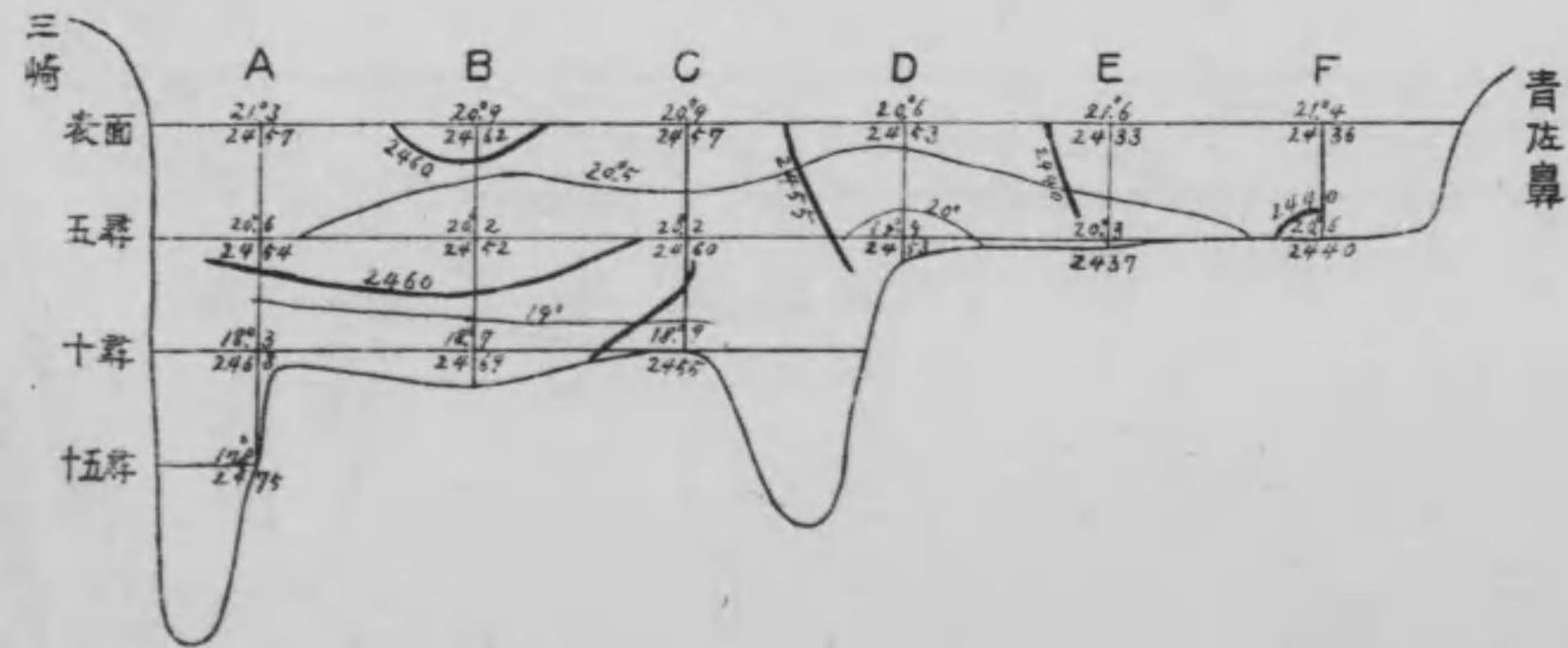
右各見透線ガ青佐鼻三崎ノ見透線ト夫々交ル点トス

観測点番號	A	B	C	D	E	F	平	
観測日 (月日)	24 (8)	24 (8)	24 (8)	24 (8)	24 (8)	24 (8)	24 (8)	均
観測時 時分	正午	AM 11.10	AM 10.20	AM 9.25	AM 8.55	AM 8.30		
水								
表面	21.03	20.09	20.09	20.06	21.06	21.04	21.01	
五尋	20.06	20.02	20.02	19.99	20.03	20.06	20.03	
十尋	18.03	18.07	18.09				18.06	
十五尋	17.98						17.98	
比								
表面	示度 (温度) 1.02240 (23.09)	1.02220 (24.04)	1.02210 (24.06)	1.02200 (24.08)	1.02170 (25.02)	1.02170 (25.03)		
換算比重	1.02457	1.02462	1.02457	1.02453	1.02433	1.02436	1.02450	
五尋	示度 (温度) 1.02240 (23.08)	1.02210 (23.04)	1.02220 (24.06)	1.02200 (24.08)	1.2180 (25.00)	1.02180 (25.01)		
換算比重	1.02454	1.02452	1.02460	1.02453	1.02437	1.02440	1.02451	
十尋	示度 (温度) 1.02250 (23.06)	1.02230 (24.03)	1.02210 (24.05)					
換算比重	1.02468	1.02469	1.02455				1.02464	
十五尋	示度 (温度) 1.02250 (23.05)							
換算比重	1.02475						1.02476	
透明度							備考	
流向	W	W	W	S	S	S		
流速	稍急	稍急	緩	緩	緩	緩		
氣温	23.09	22.08	23.06	22.04	22.09	21.05		
風向	S	S	S	S	S	S		
風力	1	2	2	2	1	1		
雲量	6	5	5	5	6	6		
雲形	SC	CKCS	CKCS	CK	CK	CKCS		
天氣	晴	晴	晴	晴	晴	晴		

自岡山縣淺口郡青佐鼻 至香川縣三豊郡三崎間
自大正九年六月二十四日午前八時三十分 至全日正午

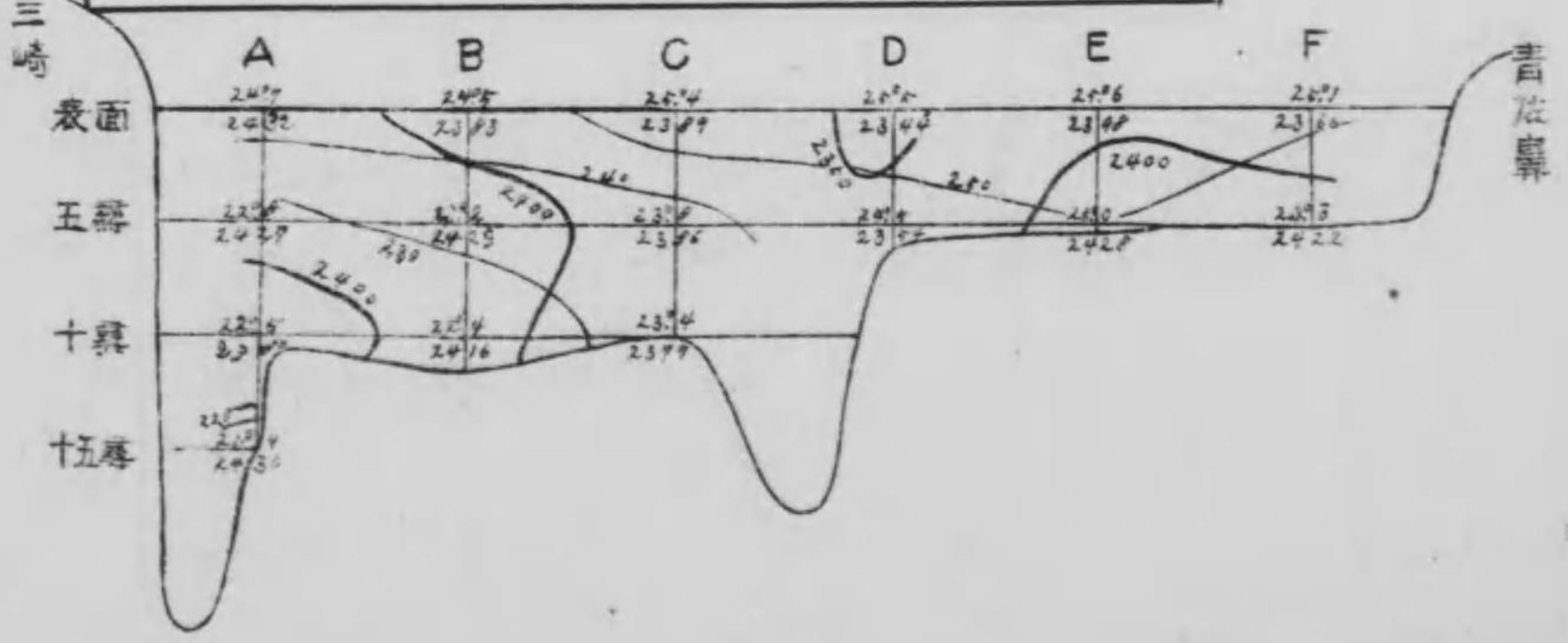
備後灘東部海洋横斷観測圖表

上旬 鯧漁獲ナシ
中旬 鯧漁獲ハ地曳網一統ニ付平均一石内外ニシテ親鯧ノミナリ兒鯧未ダ發見セズ 本旬ヨリ鯧手釣開始ス漁振ハズ 樹網ノ漁獲好況主トシテ真鯛、鯧、柔魚ノ漁獲ニシテ沖立樹網一統ノ漁獲最高二千圓(三月下旬ヨリ六月二十四日迄)最低千圓内外
下旬 鯧漁獲引續キ不況ナリ 兒鯧未ダ見エズ月末頃ヨリ漁獲アル見込ナリ 本旬ニ入リテ鯧漁終了ス



観測点番號	A	B	C	D	E	F	平	
観測時	21 (5)	21 (5)	21 (5)	21 (5)	22 (6)	22 (6)	均	
時分	AM 10.0	AM 11.0	PM 0.5	PM 2.2	AM 8.4	AM 8.10		
水	24.07	24.0	25.0	25.05	25.01	25.01	25.01	
温	22.08	23.02	23.98	24.02	25.00	24.0	24.01	
	22.01	22.0	23.04				22.00	
	21.09						21.09	
比	示度 (温度)	1.02160 (25.0)	1.02120 (25.01)	1.02120 (25.04)	1.0208 (25.03)	1.02080 (27.01)	1.02060 (26.07)	
	換算比重	1.02432	1.0238	1.02389	1.0234	1.0239	1.0240	1.02380
五	示度 (温度)	1.02170 (25.0)	1.02160 (25.02)	1.02120 (25.03)	1.02090 (25.03)	1.02120 (26.07)	1.02130 (26.02)	
	換算比重	1.02427	1.0242	1.02386	1.0235	1.0242	1.02422	1.02407
十	示度 (温度)	1.02100 (25.01)	1.02150 (25.03)	1.02110 (25.05)				
	換算比重	1.02360	1.02410	1.02379				1.02385
重	示度 (温度)	1.02170 (25.01)						
	換算比重	1.02430						1.02430
透	5	5	3	2.5	3	3.2	備考	
流	W	W	W	E	E	E		
速	1.5 m	1.5 m	0.5 m	0.5 m	1 m	1 m		
風	29.0	28.0	31.0	32.0	28.0	26.0		
向	SE	E	E	E	SE	NE		
力	1	1	1	1	2	2		
雲	7	4	2	2	0	1		
形	SK	CS	CK	CK	-	SC		
天	晴	晴	晴	晴	快晴	快晴		

漁 上旬 多少ノ鯉漁アリ
 中旬 多少ノ鯉漁アリ
 下旬 殆ソド見込ナキ程ナリ
 况



自大正九年七月二十一日午前十時 至二十二日午前八時四十分
 自岡山縣淺口郡青佐鼻 至香川縣三豊郡三崎間

備後灘東部海洋横斷観測圖表

備後灘東部海洋横斷観測圖表



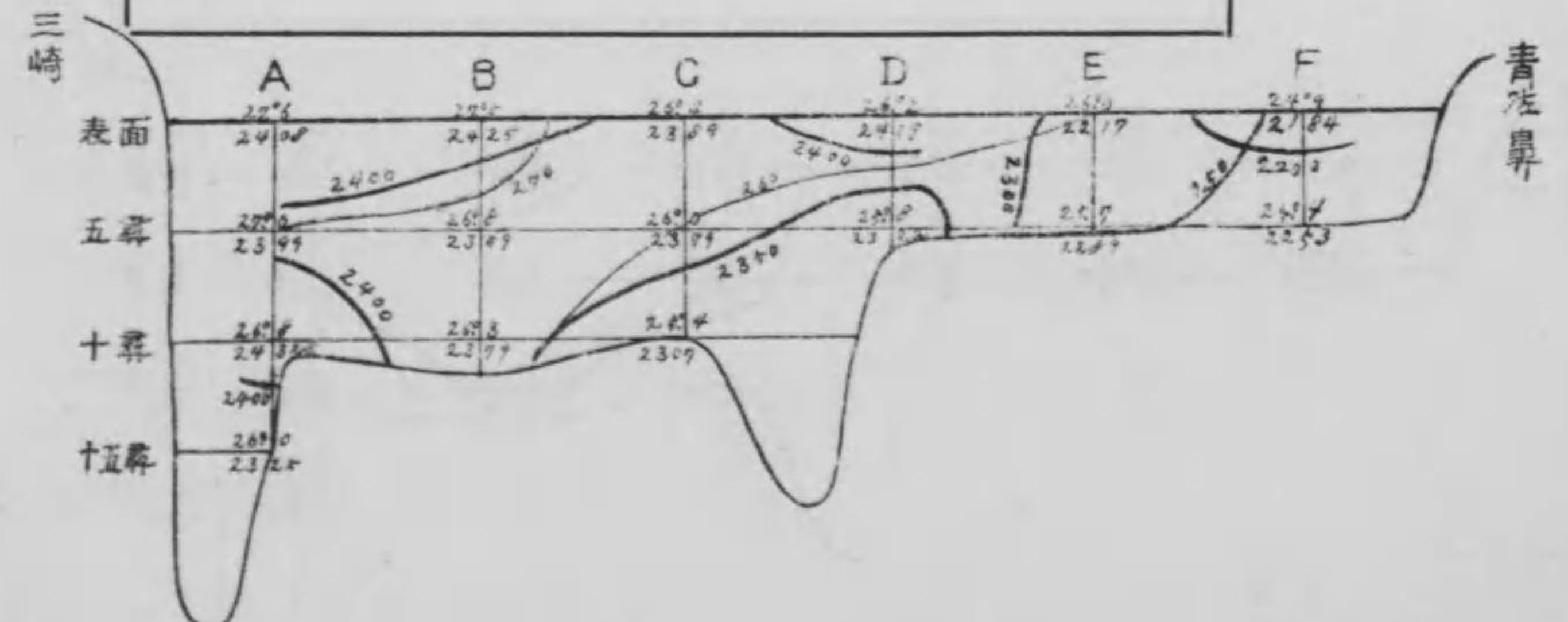
観測点番號	A	B	C	D	E	F	平	
観測日 (月日)	26 (12)	26 (12)	26 (12)	26 (12)	26 (12)	26 (12)	26 (12)	
観測時 時分	PM 3.0	PM 1.20	AM 11.0	AM 9.30	AM 8.50	AM 8.20	均	
水 温	表面	27.2	27.2	26.4	26.2	25.0	26.2	
	五尋	27.0	26.8	26.0	25.8	25.0	26.0	
	十尋	26.8	26.3	25.4			26.2	
	十五尋	26.0					26.0	
比 重	表面 示度 (温度)	1.02140 (26.2)	1.02160 (26.2)	1.02130 (26.0)	1.02170 (25.5)	1.01990 (25.0)	1.01960 (24.0)	
	換算比重	1.02408	1.02425	1.02389	1.02417	1.02217	1.02184	1.02340
	五尋 示度 (温度)	1.02144 (25.0)	1.02100 (26.2)	1.02120 (26.0)	1.02080 (25.4)	1.02080 (25.2)	1.02150 (24.0)	
	換算比重	1.02399	1.02359	1.02374	1.02322	1.02289	1.02253	1.02333
	十尋 示度 (温度)	1.02180 (25.7)	1.02120 (26.0)	1.02060 (25.6)				
	換算比重	1.02432	1.02379	1.02307				1.02373
	十五尋 示度 (温度)	1.02090 (25.5)						
	換算比重	1.02325						1.02321
透明度	7	7	6.5	6.5	6	5	備考	
流向	W	-	E	E	E	E	本縣水島沖ハ出水ノ爲 メテ沿岸附近ノ比重低下 尙透明度ハ大ナリキ	
流速	1	-	1	2	1	1		
氣温	34.2	34.2	32.1	28.6	28.0	25.5		
風向	S	SE	SE	SE	E	E		
風力	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風	軟風		
雲量	2	2	2	2	2	2		
雲形	CK	CK	CK	CK	CK	CK		
天氣	晴	晴	晴	晴	晴	晴		

自大正九年八月二十六日午前八時二十分 至全日午後三時

備後灘東部海洋横斷観測圖表

自岡山縣淺口郡青佐鼻 至香川縣三豊郡三崎間

漁上旬 眞鍋島ノミ三四千圓ノ鯉漁アリタレ共其他ノ島ニテハ殆ソドナシ
中旬 全 上
下旬 全 上
況



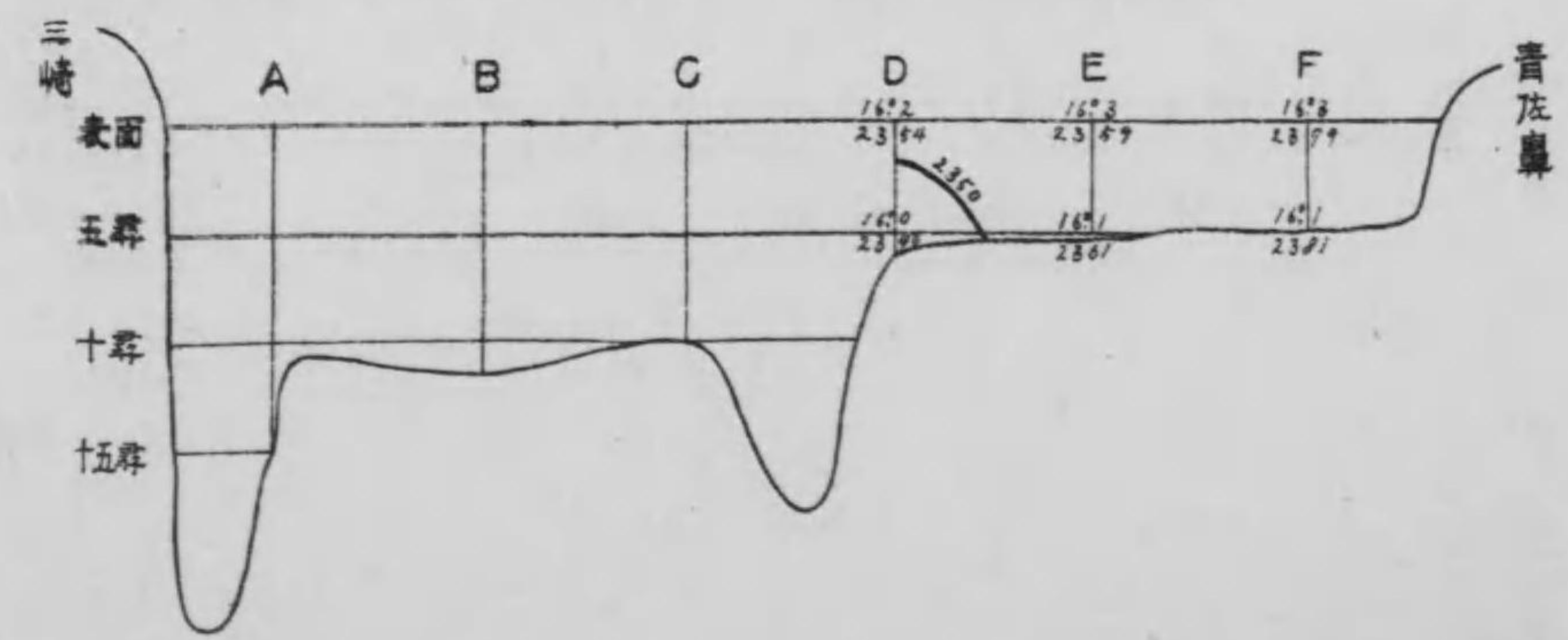
観測点番號		A	B	C	D	E	F	平
観測時	日				26	26	26	均
	(月) 時分				(14) AM 11:30	(14) PM 1:20	(14) PM 2:30	
水	表面				16.92	16.93	16.93	16.93
	五等				16.90	16.91	16.91	16.91
	十等							
	十五等							
比	表面				1.02350	1.02350	1.02379	1.0236
	換算比重				(15.92)	(15.94)	(15.96)	
	五等				1.02350	1.02350	1.02380	
	換算比重				(15.90)	(15.91)	(15.91)	
重	十等				1.02340	1.02361	1.02381	1.02361
	換算比重							
	十五等							
	換算比重							
透	明				4	4	3.5	備考
流	向				E	E	E	
流	速				1 m	1.5m	1.5m	A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、aa、bb、cc、dd、ee、ff、gg、hh、ii、jj、kk、ll、mm、nn、oo、pp、qq、rr、ss、tt、uu、vv、ww、xx、yy、zz、AAA、BBB、CCC、DDD、EEE、FFF、GGG、HHH、III、JJJ、KKK、LLL、MMM、NNN、OOO、PPP、QQQ、RRR、SSS、TTT、UUU、VVV、WWW、XXX、YYY、ZZZ、AAA、BBB、CCC、DDD、EEE、FFF、GGG、HHH、III、JJJ、KKK、LLL、MMM、NNN、OOO、PPP、QQQ、RRR、SSS、TTT、UUU、VVV、WWW、XXX、YYY、ZZZ
風	温				16.93	16.95	16.95	
風	向				N	N	N	都合上欠測
風	力				軟風	軟風	軟風	
雲	量				2	2	2	A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、aa、bb、cc、dd、ee、ff、gg、hh、ii、jj、kk、ll、mm、nn、oo、pp、qq、rr、ss、tt、uu、vv、ww、xx、yy、zz、AAA、BBB、CCC、DDD、EEE、FFF、GGG、HHH、III、JJJ、KKK、LLL、MMM、NNN、OOO、PPP、QQQ、RRR、SSS、TTT、UUU、VVV、WWW、XXX、YYY、ZZZ
雲	形				C	C	C	
天	氣				晴	晴	晴	

自大正九年十月二十六日午前十一時三十分 至全日午後二時三十分

備後灘東部海洋横断観測圖表

自岡山縣淺口郡青佐鼻 至香川縣三豊郡三崎間

漁 上旬 鱒漁少シアリタレ共一般ニ漸次凶漁ノ見込
 中旬 殆ンドナシ
 下旬 殆ンドナシ
 况

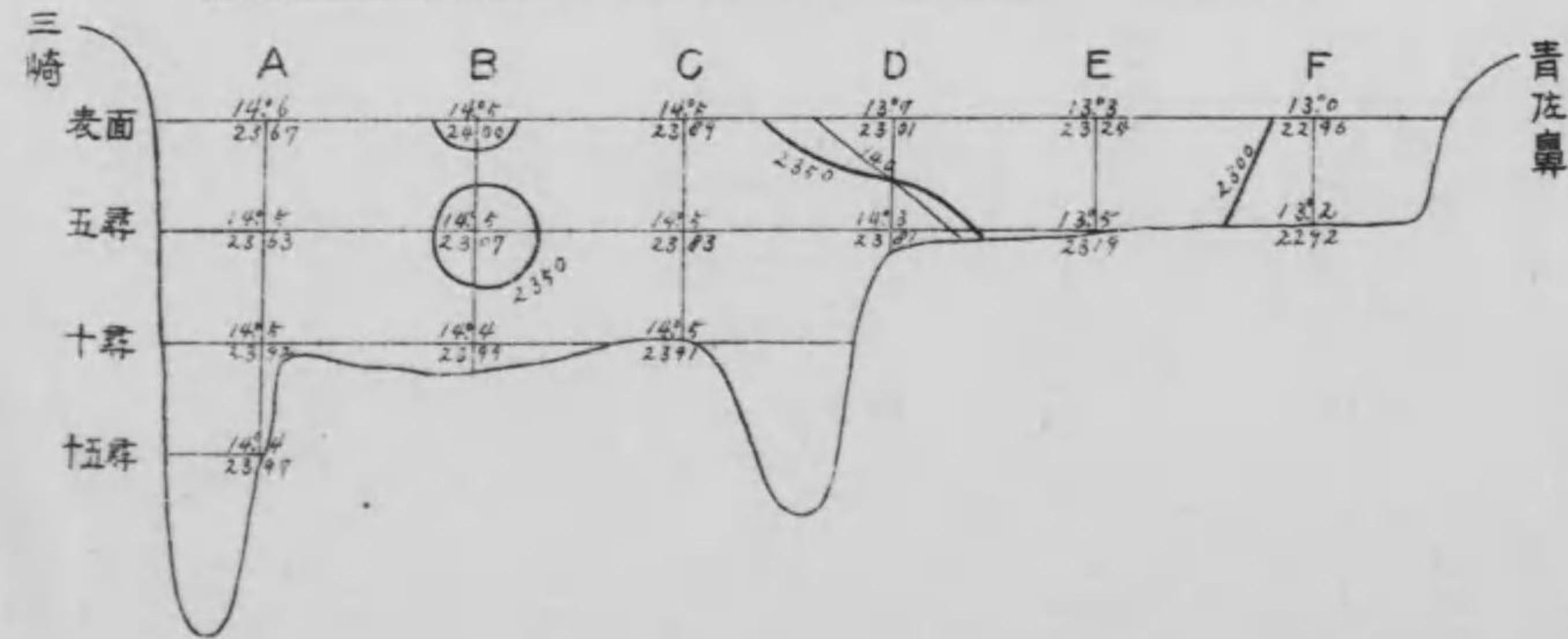


観測點番號		A	B	C	D	E	F	平	
観測時	日 (日齡)	19 (9)	19 (9)	19 (9)	19 (9)	18 (8)	18 (8)	均	
	時分	AM 10.30	AM 11.0	AM 11.40	PM 0.40	PM 1.30	PM 2.20		
水	表面	14.06	14.05	14.05	13.97	13.93	13.90	13.99	
	五尋	14.05	14.05	14.05	14.03	13.95	13.92	14.01	
	十尋	14.05	14.04	14.05				14.05	
	十五尋	14.04						14.04	
比	表面	示度 (溫度)	1.02407 (13.90)	1.02437 (13.92)	1.02417 (13.96)	1.02335 (13.92)	1.02377 (12.93)	1.02347 (12.94)	1.02346
		換算比重	1.02367	1.02400	1.02389	1.02301	1.0232	1.02296	
	五尋	示度 (溫度)	1.02317 (12.93)	1.02337 (13.95)	1.02407 (13.98)	1.02407 (13.97)	1.02367 (12.94)	1.02337 (12.97)	1.02342
		換算比重	1.02363	1.02307	1.02383	1.02381	1.02319	1.02292	
	十尋	示度 (溫度)	1.02427 (13.93)	1.02427 (13.96)	1.02417 (13.97)				1.02394
		換算比重	1.02392	1.02399	1.02391				
	十五尋	示度 (溫度)	1.02327 (13.94)						1.02397
		換算比重	1.02397						
透明度		10	10	9	6	4	5	備考 各點ニ於テ採集ス	
流向		W	W	W	W	W	W		
流速		0.5 m	0.5 m	1 m	1.5 m	1.5 m	1 m		
氣温		14.08	14.05	13.97	12.97	15.94	15.94		
風向		W	W	W	W	W	W		
風力		1	2	2	2	2	2		
雲量		1	2	2	2	8	8		
雲形		K	K	K	K	KN	KN		
天氣		晴	晴	晴	晴	曇	曇		

漁 上旬 鱒漁少々アリ三四寸位ノモノ

中旬 全 上

況



備後灘東部海洋横断観測圖表

自岡山縣淺口郡青茂鼻 至香川縣三豊郡三崎間

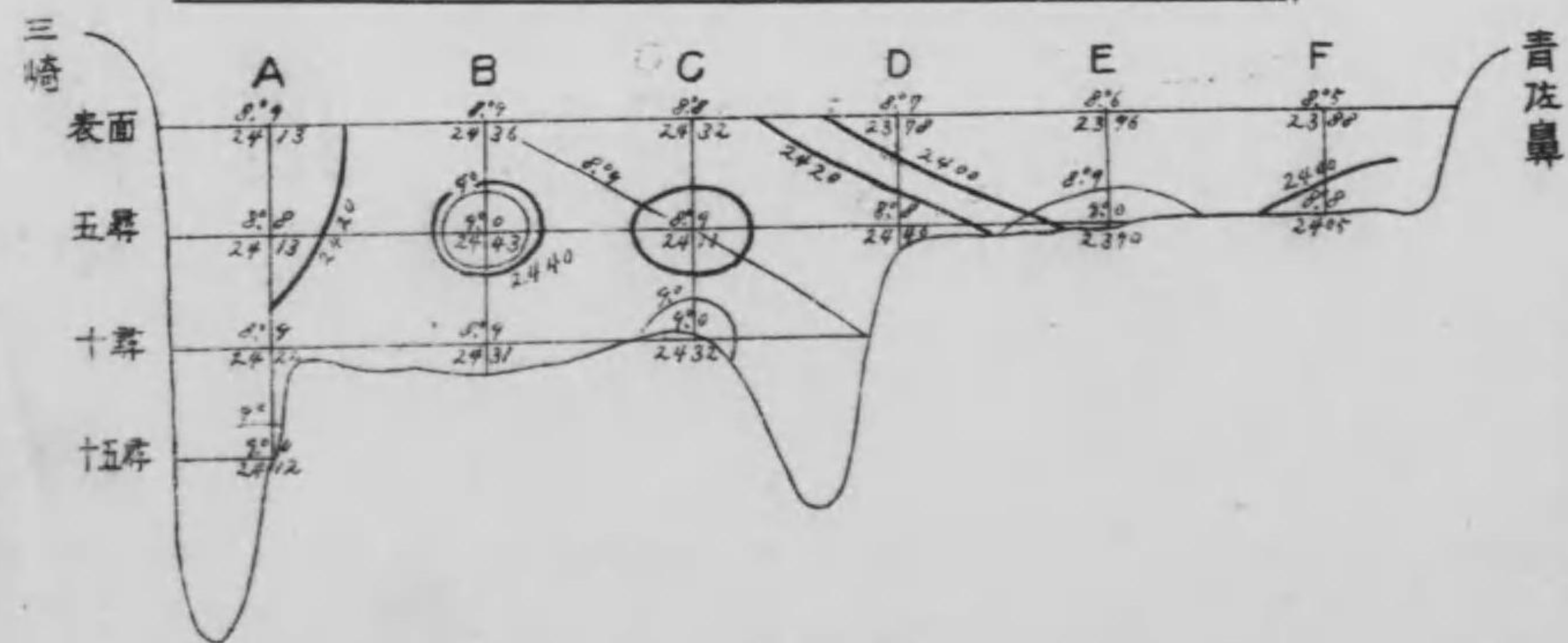
自大正九年十二月十八日午後一時三十分 至全月十九日午後〇時四十分



観測点番號	A	B	C	D	E	F	平	
日 (月齡)	3 (24)	3 (24)	3 (24)	3 (24)	3 (24)	3 (24)	均	
時分	AM 8:50	AM 9:15	AM 9:37	AM 10:5	AM 10:22	AM 10:35		
水表面	8.09	8.09	8.08	8.07	8.06	8.05	8.07	
五尋	8.08	9.00	8.09	8.08	9.00	8.08	8.09	
十尋	8.09	8.09	9.00				8.09	
十五尋	9.00						9.00	
比表面	示度 (溫度)	1.02530 (7.1)	1.02560 (6.2)	1.02550 (6.7)	1.02510 (5.2)	1.02510 (7.3)	1.02500 (7.4)	
	換算比重	1.02413	1.02436	1.02432	1.02378	1.02396	1.02388	1.02407
五尋	示度 (溫度)	1.02530 (6.8)	1.02560 (6.8)	1.02545 (5.0)	1.02560 (7.3)	1.02520 (7.8)	1.02510 (8.1)	
	換算比重	1.02413	1.02443	1.02411	1.02446	1.02390	1.02405	1.02418
十尋	示度 (溫度)	1.02540 (6.6)	1.02560 (6.6)	1.02550 (6.7)				
	換算比重	1.02222	1.02431	1.02432				1.02428
十五尋	示度 (溫度)	1.02530 (6.7)						
	換算比重	1.02412						1.02412
透明度	12	11	1.0	6	6	6	備考	
流向	E	-		W	W	W	集各點ニ於テ浮游生物採	
流速	0.2m	-		0.25m	0.2m	0.5m		
氣溫	5.0	5.4	5.4	5.5	6.4	6.0		
風向	NE	NE	NE	NE	NE	NE		
風力	和風	和風	和風	和風	和風	和風		
雲量	4	3	4	5	5	3		
雲形	C	C	C	C	C	C		
天氣	晴	晴	晴	晴	晴	晴		

備後灘東部海洋横斷観測圖表
 自岡山縣淺口郡青佐鼻 至香川縣三豊郡三崎間
 自大正十年三月三日午前八時五十分 至全日午前十時三十五分

漁 上旬 鱈漁ナシ
 况



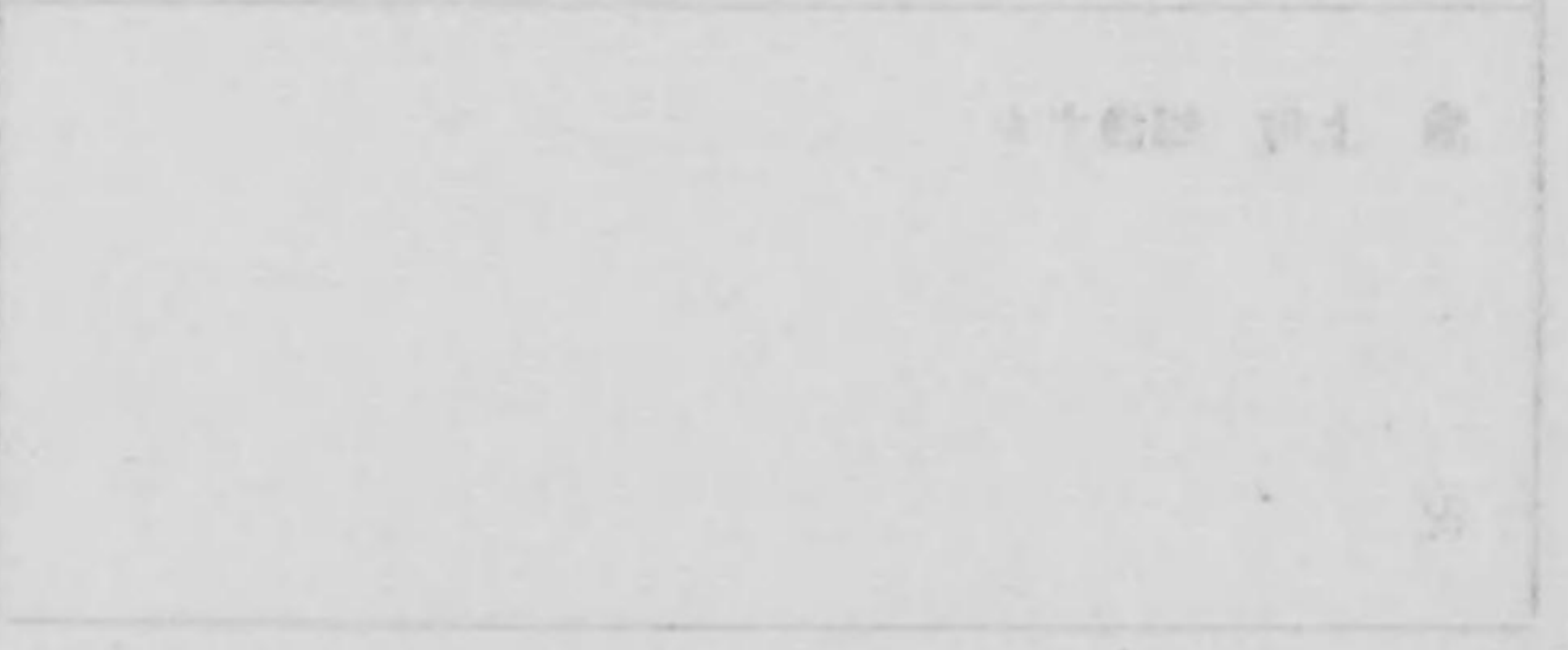


頭島

關於新東清新平附港地圖式

自大清光緒三十三年三月二十日開人租界十位
 自開辦以來日漸發達 亦甚欣慰 茲將該港三項圖

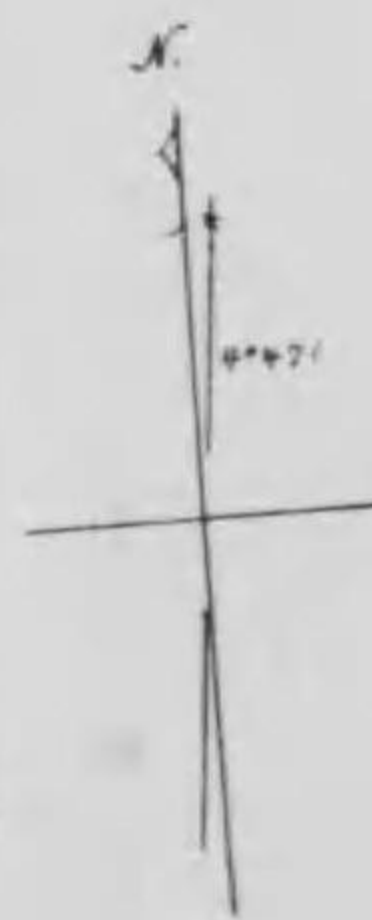
項目	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
第一項
第二項
第三項
第四項
第五項
第六項
第七項
第八項
第九項
第十項
第十一項
第十二項
第十三項
第十四項
第十五項



二、其圖查詢用利海淺

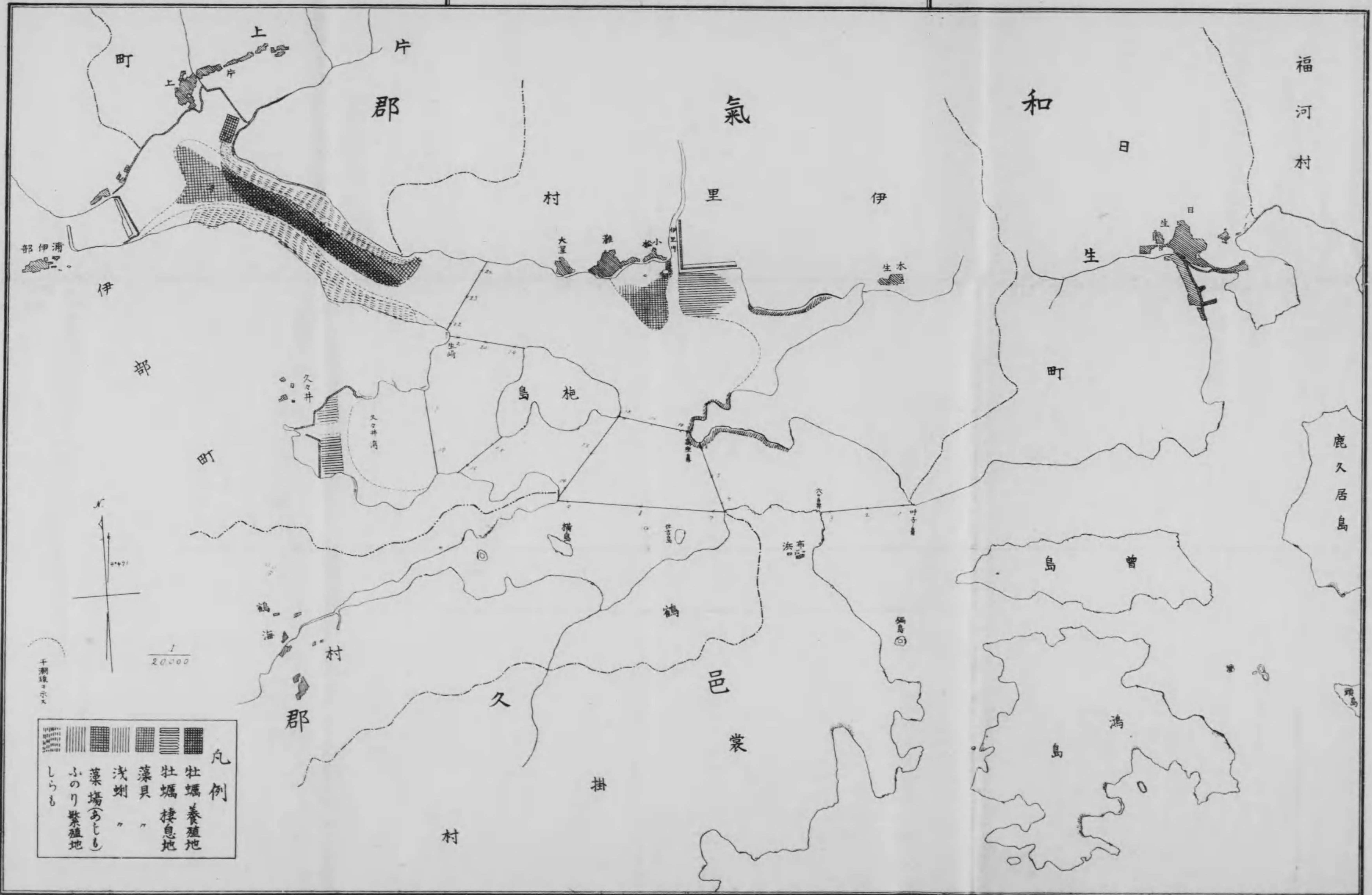


	凡例
	牡蠣養殖地
	牡蠣棲息地
	藻貝
	浅畑
	藻場(あじも)
	ふのり繁殖地
	しらも



千瀬線を示す

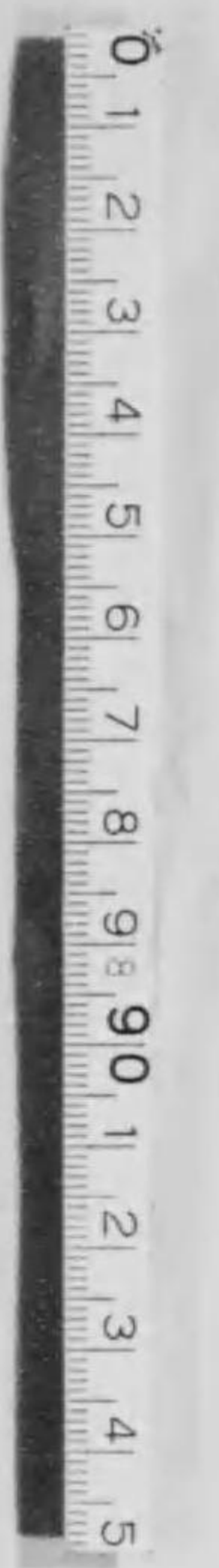
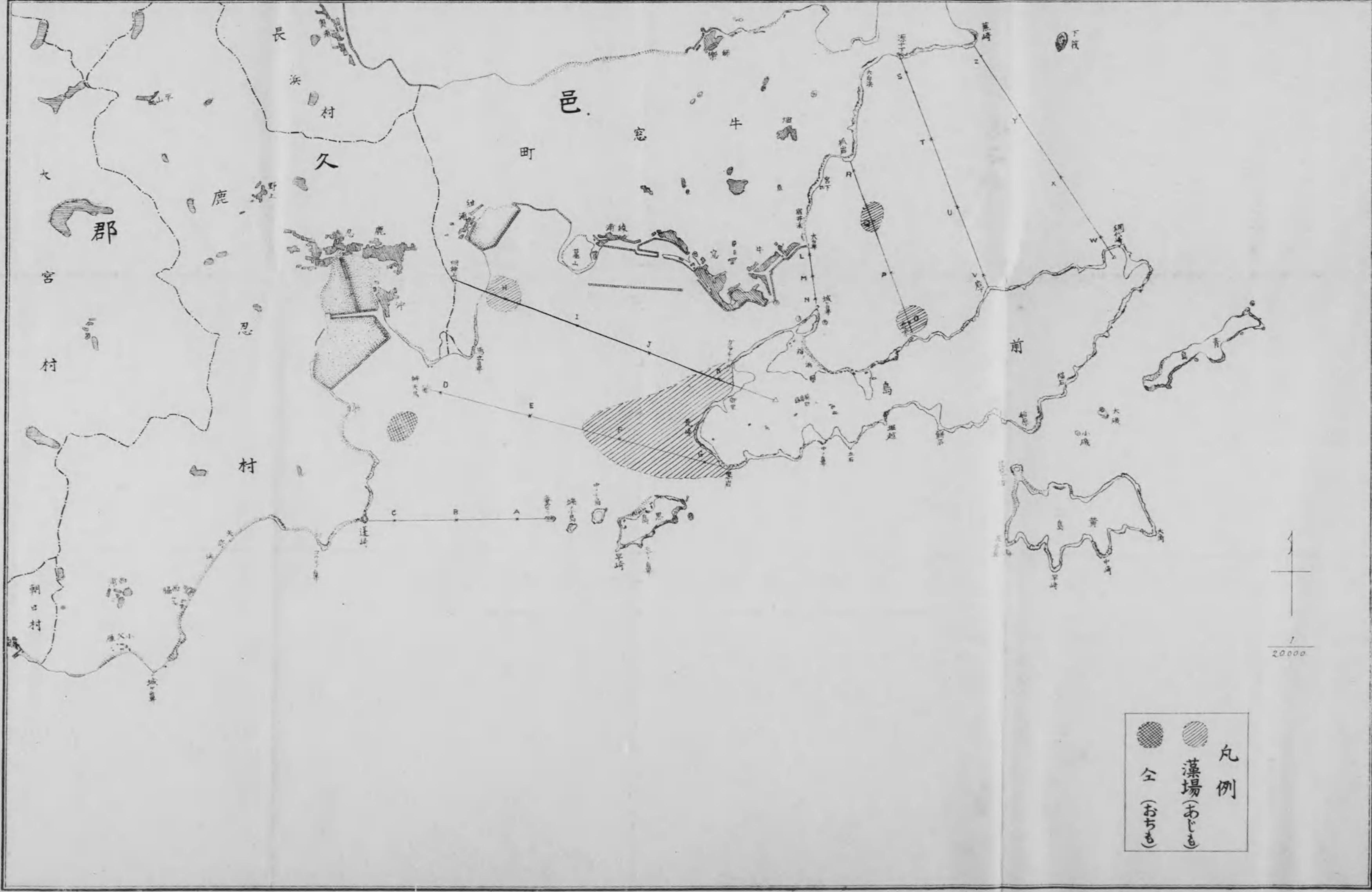
二、其圖查詢用利海淺



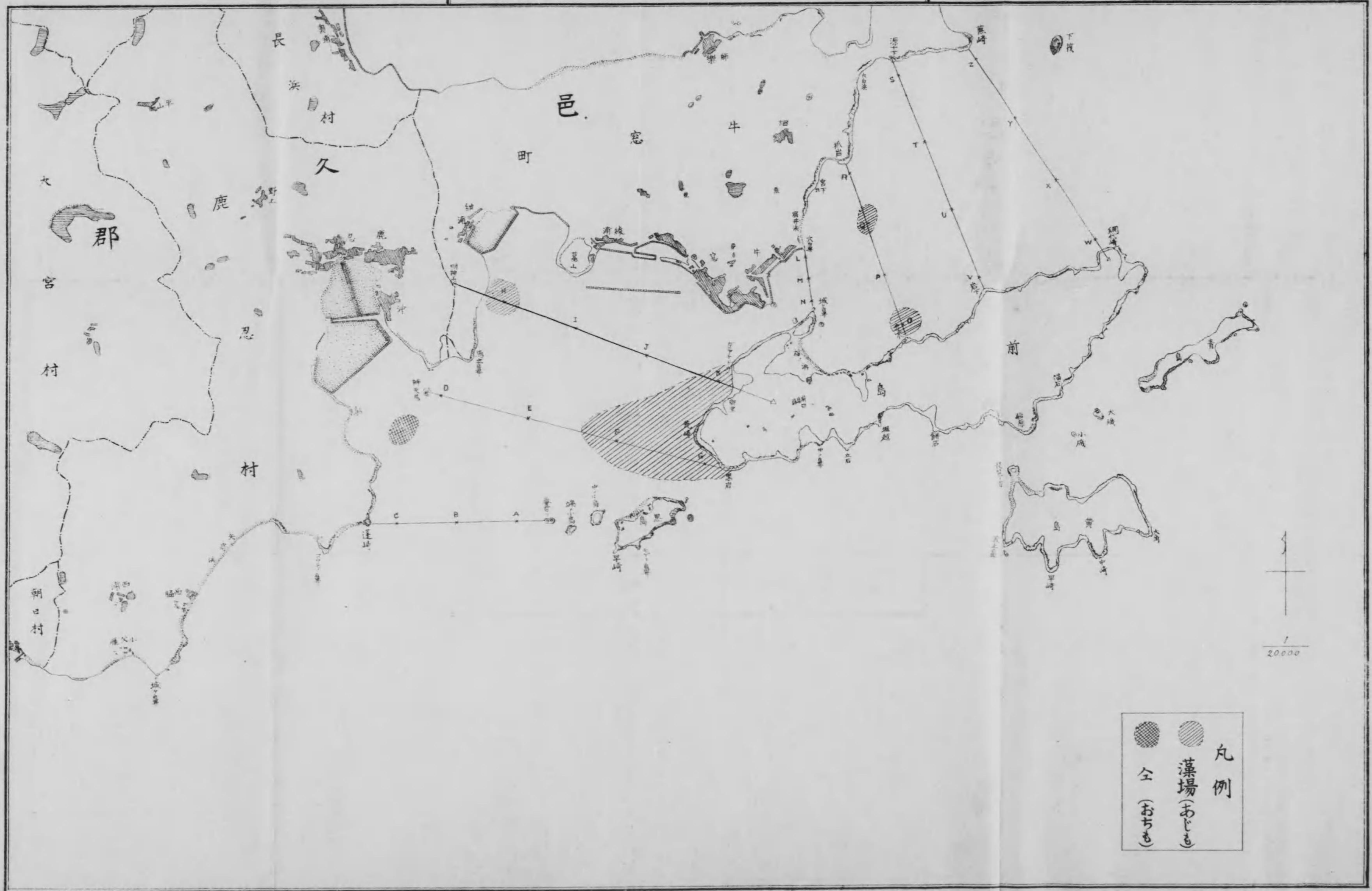
凡例

	牡蠣養殖地
	牡蠣棲息地
	藻貝
	浅蛸
	藻場あじも
	ふのり繁殖地
	しらも

三、其圖查調用利海淺



三、其圖查調用利海淺



1424
104

大正十一年六月十二日印刷
大正十一年六月十五日發行

(非賣品)

岡山縣水產試驗場

印刷者 梅 島 歌 三 郎

岡山縣岡山市西中山下百七十八番地

印刷所 岡 山 印 刷 所

岡山縣岡山市西中山下百七十八番地



終

